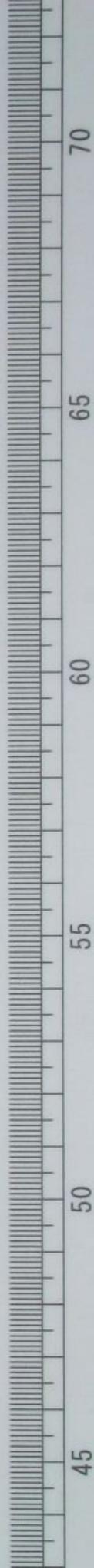


病家須知
一名病家意得草

武
2分



廣福大王賜號

古心好子科

原名病家須知



序

病家須知成。偶有客謂曰。此書首論攝養。弗可廢。療藥弗可苟之事。而極危時。醫之病。其言固當矣。或恐

序

世之囂者。不深索其意。
趣。而遽以子為銜。已抑異
之徒歟。曰。吁。子何傷焉。惟
方今昇平二百餘載。輕佻
浮靡之風。漸扇。延及我伎。

競尚名利。便給求售。其術
之短陋。恬莫之羞。斯道之
陵夷。不可勝言也。最慨庸
人居恒。不為謹其動息。節
其嗜欲。而全以歸之。一旦

病發。乃復委之時。整之手。
容彼巧說。甘其飽辭。到死
終不顧。何況望其為孝子
慈孫乎。予登業刀圭。微試
攝養。弗可廢。療藥。弗可苟

之事。每舉以諭病家。此編
所述。亦其餘論也。孟子有
言。莫非命也。順受其正。盡
其道死者。正命也。極桎死
者。非正命也。予豈銜已抑

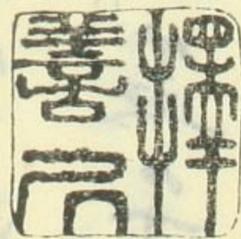
天保壬辰季秋新鑄

全部
八册

擇善居藏

病家須知
合刻
坐婆心研

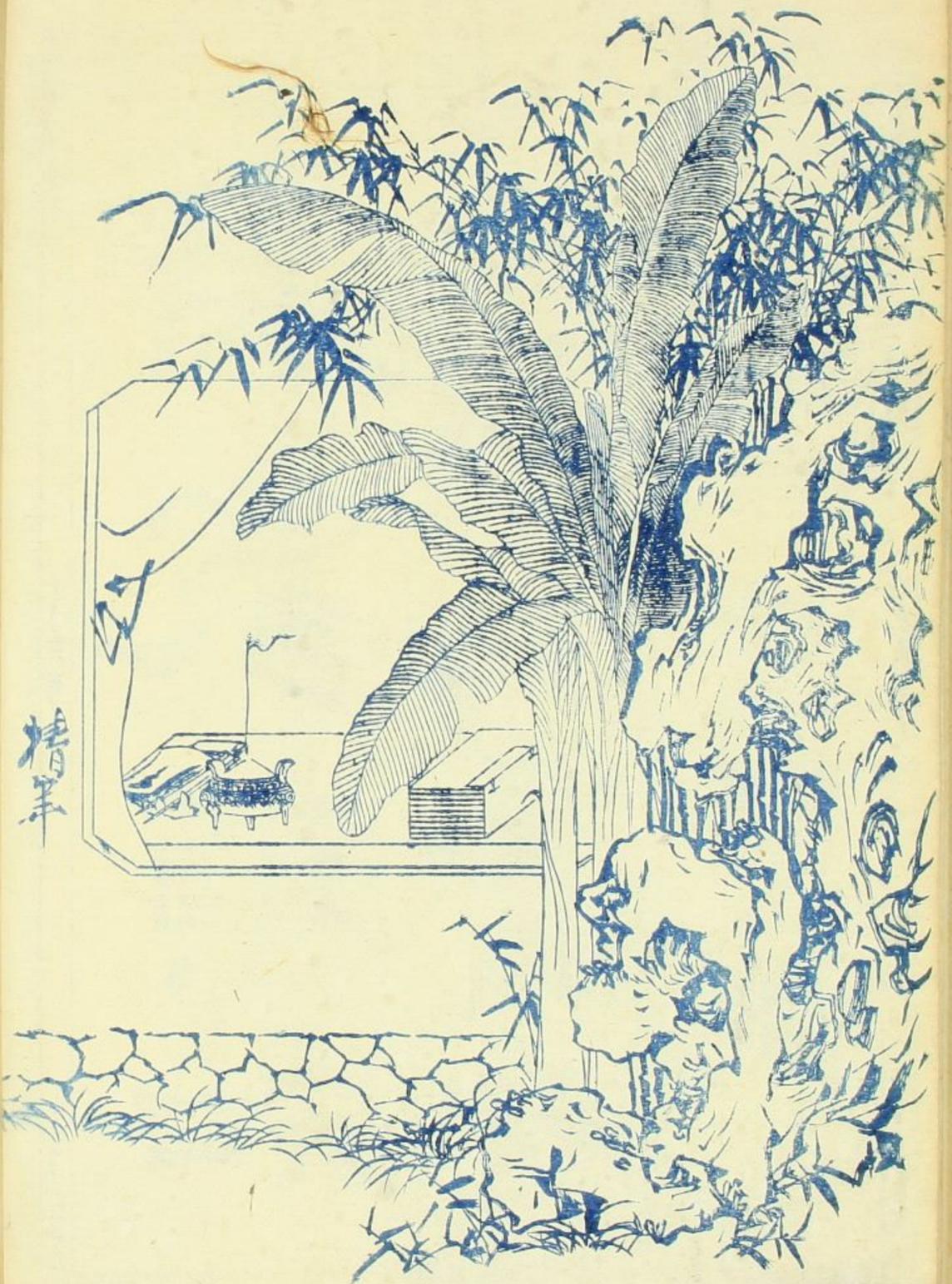
異之為哉。特痛夫非正命
而死者也。客唯上而退乃
弁此數語以為序。天保壬
辰季秋。革谿道人



病家須知卷之一

目録

- 題辭ヲ ○提要ヲ ○坐婆必研を合刺きし主意ヲ
- 養生の心得ヲ ○飲食の慾を制すべき法ヲ ○睡眠の規則を定るゝ法ヲ ○體客と呼吸を調和せしむる法ヲ ○癩證及一切上部の迫塞を治るゝの病を治るゝの體と息とを調ふる必治する經驗ある法ヲ ○行住坐卧の體息を調ふる法ヲ ○小兒の病もその意を用て益ある法ヲ ○心意を調ふ法ヲ ○久しく藥を用ゝ治らぬ病多し其心の調ふる由と法ヲ ○觀相師の血色を論ずる其旨同き法ヲ ○瞋恚の心は絶つると喜怒の情妄に動やそれより誤る病のあはるゝ法ヲ ○夜卧は歌を誦く胸腹腰股を撫



精筆

摩及息を臍下ニ至一むる簡易にて行やと術を記し
 病を愈まふ便き一むる本と并ニ圖ヲ五 ○安ニ藥を服は
 べし心得ヲ一 ○ト筮籤の病者ニ損ある本と一
 ○病因の明なきぬりのを自然ニ委て益ある本と一 ○鑿
 者ニ病家うけのよれいひる辭ある本と一 ○富貴の
 家の大病ハ眞の治法を施ぬ本と一 ○諸侯の儲君及臣
 下鑿官の心得ありた本と一 ○諸ハ鑿者の大病を治そ
 るハ僥倖ある本と一 ○學鑿ハ七のゆらぬ本と一 ○紅
 毛鑿學の世ニ害ある本と同 ○鑿ニ應對する心得一
 ○病家の鑿按たてハ大ニ害なる本と一 ○しゆせ鑿
 者ハ病因をそとく先病家の心をうる本と同 ○大小便の
 通リかぬるもいろくの病因ある本と一 ○容體をよく

心得る鑿ニ告録バ大ニ損ある本と一 ○藥を用ふる心
 得ある本と一 ○病の傳染をた心得 ○病毒ハ皆人
 の所作ニ由本と一 ○劉元城が誠の心との身を護て毒蛇
 も近こと心得ざる圖 ○うけり易た病を避ふる心得ある
 本と一 ○萬病一毒といふ説の世ニ害ある本と一 ○看
 病人の心得 ○第一ニ病の萌を防ぐ本と一 ○第二
 ニ病を其初ニ治むれば必速ニ愈る本と一 ○第三ニ病勢已
 め進たると看病人の心得ある本と一 ○心得ありて病をけ
 らす本と一 ○乞食の痘兒を屋の中へ居て卒ニ變症出
 たる本と一 ○病者の寢間の氣のありたるハ大ニ害とな
 る本と一 ○大病後夜寐しぬるのを睡まむる法并ニ圖
 ○看病人の細心を注べた本と一 ○飲食の分量と二便

處置の宜を得せしめんと思こ、その止むべく已に拙をも
顧び、かもし出るまゝを述べ、遂に一編の書と成ぬ。もしも
を讀ん人其好悪小偏心ををて、看過再四作者の苦心を知
ことあらば、あま予の衆人小望ところあり。

第一之巻小る養生の心得より、食事、寢寐、坐卧、呼吸、心意の五
の調不調より、健小もあり病も發ことと論じ、妄小藥を用る
害と擧病あり、醫を招藥と乞小もその意得あることと示
次小一切の病の傳染を道徳を述終小者病人の心得小三
等あり。その萌あき小ふせき、初發小治し、險重小心をつく
し。死期小至まぐること及病のため小禱をる輩の心得を辯

志く病家の便とを。

第二の巻小る食物能毒の親驗より、此方小獸肉を禁むる理
を述、大約病者小與べに穀肉果菜の宜忌及病ととの飲食小
任く治むること代記、尾小藥の性効を臆料小謬認ことの大
要を論じ、俗家の心得とを。

第三の巻小る小兒を養育べき用意より、母の自身乳を喫む
べき理と、乳小より其兒の氣質を轉ことあることを述、自
乳養こととのあらぬものも、乳媪を撰小その計較あるべに、あ
と代辯し、乳媪の攝養、初生小乳を用ること、乳乏少小ありた
ることの、初生の涎尿の辯、吐乳の尤恐べき證あるまこと

を説。衝逆を救べき手術及用藥小こ、ろえあると述。小兒の病多々父母の遺毒小因ことを明小し。俗小小兒の病小蟲といふことある辯と畧小舉ぐ。終小痘疹毒の由來を詳小し。痘兒看護の致意及水痘の大要まぐと載たり。第四の巻小ら。婦人平素の裁量の謬執より。多々持病といふもの、發ことと論し。懷妊の保護小背あることとのべ。鎮帯産椅の利害を説。懷妊中の疾。妊癩。瘧病。小便通せざる類。俗家小くも救るべしことと。會得易やう小圖小見しこととを載。催生藥のことより。臨産のこと、ろえ産後の所置。眩運崩漏。胞衣下ざるもの、こと。惣て俗家のため小あるを記ことと略。

小記坐婆必研と參考べきやう小したり。第五の巻小ら。微毒肥前瘡の毒の異邦より傳來する所以と論して。避べきこと、ろえを述。既小病たるものも其初小慮ハ毒も蔓延こととあく治しやとれ道理を明小し。變トく諸病と成小至てら。醫師も誤認く治法を得たきこととあし。藥小よ里くあしを病もの廢殘とあることとを詳小し。陰癰のこと并小灸の經驗を載。次小傷寒時疫感冒の辯。古今の名を異小とること。陰證陽證の誤認。醫俗の濫稱。用藥の差失。病證の難易治不治の候と大槩小示。惣て熱ある病者の所置看護の用意を述。或る天地萬物一切の條理もことごとく對法小あるこ

この大略を論病苦治術も亦自然の道小順べたものあることと明小し。專愚俗の疑惑少のらゝめんことを欲と。そとよ
疔病初發の治法毒劇もの、こと并小古昔より其病因を
誤認く。中復唱蘭の説の今小害あることを辯析し。病家の意
得小あるべきこと試示したり。はさ今行る、脚氣の千金方
外臺秘要をど、いふ書小載たるものこと其別あるの故小。
古來より用來し脚痺の藥劑小くも成効をたもの多。一應を
愈ふことく見ゆるも。たゞ氣候小從く發歇あるまぐ小く。歳
を経く治しがたく。遂小ら變トく諸病とある小至く猶悟も
のふく。その初よ王治術小差別あることを知ざることとを辯

トて俗家の教とに。

第六の巻小ら。傷食霍亂の心得より。一切毒小中たるもの。其
急卒劇甚もの。鑿を招間もあく怒小命を隕ことあまハ。平
素小記得べきことごもを一々小説明し。次小卒暴小發る病
の類。沈睡急痲緩痲。僵厥昏冒。眩運睡驚癲癩。狂氣肩項卒痺。衄
血吐血。脱肛。蟲病。注。轆。船。湯火傷。咽梗。犬咬傷。蛇。蟲咬傷。鼠咬傷
小いたるまぐも。皆其初發小速治を施バ救得らるべた術と。
俗家の了解易やう直捷小示たり。その中大咬傷ごととさる尤
輕易證あると。鑿俗とも其知見をたゆゑ小大患小到しむる
おと試嘆く多年の自驗を記く遺ことあり。次小舉るとあり

金創擲撲の心得。正骨の術のごときも。武家非常の用意小も
あることあきば。専門小あらねども。少壯より諸家の秘訣を
受得たるものを。簡約小其要と記たるまじあり。
上小列るころの數目。その次序錯置とともあきどもと思
いゆるまゝ、と記たる書をきば。前後の差別小ふるは意旨の
ある小もあらば。故小此小洩せしをば彼小記く。漏落もまじ
多。こゝを以て前後通覽て參攷する小あらねば。解し得べら
ざるところあるべし。讀者その支離あると哂るるは。
第七の巻を坐婆必研の上冊あり。あきどもと俗家のため小
ごとく編たる小あらねども。末畧あきども坐婆小も乏く。難産

小く死ぬる婦人もまじ多あるべし。故小此小述る意を得ば。
俗家ありとも人を救ふあるべきあり。此編初小子藏胞衣の
形状より。懷妊胎位のことを説。妊娠を知ること。鎮帯産椅の利害。
惣て坐婆小論たれことともを詳小載て。ととより胎の倚側
を整復べき手術探宮のこと。坐草分娩かよび胞衣を下をべ
き秘術五條と記載臨産の用意まじと詳小記。惣て坐婆の會
得し易きやうと旨といたるものあり。
第八の巻へ。坐婆必研の下冊あり。此小産前後の病惡阻小
便閉瘳病。疝癰崩漏。眩暈の類と救べき術の病家須知小載て
俗家の施やせむものも彼小議。此小ハ專坐婆小教諭んこと

と要カマととるユエが故ソノワザ小其手術の簡約ツマヤカ小行易オモヒヤキものと拾ヒビて説トキ
著アラハレシ彼と此コトと參互講究カンガヘアハセ其術全備ソノジツツマタクセルことを得エせしむ。此編の要
こととるところ難産ナンザンの頭カシラを露アラシ横産ヨコザンの先手マツテと挺トキ脚オモヒと出イダシ或ナラ
背セと探得サグリエていふ小ことも烏ナレがたねオモヒ及オモヒ變胎フタゴの古今オモヒの説セツの誤アヤマリと
辯ベンし。いふある難理ナンリの産サンありさもいさゝるも傷損キズツクルこととる
とらくと分免ツマレしむべき秘訣ヒデンノムカレヨリナキトコロ古今未曾有ワザの術ウサの志オモヒも行オモヒや
とく明易アキラカヤスきことをこととく記説シレシセツの盡ツクサざるものふる圖ヱツを以モツ
て明アキラカ小其原意ソノモトヨリシノイを廣ヒロク天下の收生トリアゲバツ媪ツタヘ小傳ツタヘ世間セケシノハ産母ヤコドモ生兒モの
横天ハリビニを救ススしめんススととることを旨アチとしたるレヨ。この書レヨ小い
とく々一切サイノヒ載ノスて遺ノスことなし。

通計スベテ八卷の目錄ロクソノアラマシ其提要ヒヤウカのくのごとし。病家須知ヒヤウカもと蒼卒ニハカ
小成ナリたる書レヨを述モトべることイヒタラシも辭短イヒタラシことオホクも多カレまコレ往カレ往コレ謬カレ
慮フシも有ナリぬべけレヨととるイヒタラシ後日ゴ小撫拾ヒヒエツクて續編ゾクベンととることベツニハシヤ
もあるべし。坐婆トリアゲバツ必研オモヒ小いこととるオモヒの秘ヒシより別行ベツニハシヤをレヨとる
思オモヒく筆記カキツケおきしことトリアゲバツの收生トリアゲバツ媪ツタヘの輩カ、ル如此ホシ籍シレありと知シレよし
もあオモヒく。又求モトメく讀ヨメんと思オモヒものも稀マレあるべく。さらオモヒぐだ小我慢サマシ
偏執ヘンシツの婦女ヨシメの常態オホクあオモヒる。邂逅タマサカ小病家イデヒ小相遇イデヒととるオモヒ。教諭シロエサス
べき方便チダテもあオモヒらオモヒび。假令タトヘ偶教タダクを受ウケルものあオモヒるオモヒ。天下ヒロキの廣オモヒ予
が一人オモヒの力チカラの及オモヒこと小いオモヒあらオモヒ秘ヒシ。孕婦ハラミヨシある家イとオモヒく招マシキた
る坐婆トリアゲバツ小如此カ、ル書ホシありと告知ツケシラしめ。まオモヒと文字モジをレヨ知シレぬ輩ヤカラ小と讀ヨミ

きのせもしく誘あべ。其説を聴く開悟をることありもさべし。もしく然ん小をたゞ小其家の幸とあるのミあらば。世間孕婦産兒の禍を免しむることもはと鮮あらど。かもし立ぬる老婆心よ。遂小ハこの後ふ合て刊行せる其志を助るものあらんこと。成世小普庶幾あり。

時天保二辛卯歲秋九月廿二日擇善居主人自誌

攝生の意得を説

古昔の人の語小。人情を修後ハ貧く。力く儉をさハ富といひし。もと身と修家を保の緊要とをる所小しく。攝生の道もま。此より外あらば。故いふ小とささ。朝夕の作業怠惰ね。身體の

運化も快爽遊居あけさハ厚養半食の妨害もあらむ。諺小も言ごとく。流水も腐む。戸樞ハ蟻。みか動もああり。か。さハ無病小しく後の福を祈小ハ。力と儉との二を行小志くをさ。此二を守ん小を畏る小しくことあるべあらば。畏るとも天命と畏あり。萬の事畏慎意あさ。危ことも險のらば。過失あるべきやうもあ。酒を過ハ體の害と爲こと。成畏美味小飽ハ腸胃の化熟遲澁ことと畏。色慾を肆小せば精氣の衰耗んことと畏。ことら小耽く恒産小疎あら。家の敗喪んことと畏。衆多の錢財と費ハ。産の傾覆んことと畏。おくかりゆけハ貪婪の念窮極ことと。他。の富と羨。人の金錢を債く購こともあらぬ。故小。世の

誹謗を致激憤を來ことを畏。子孫も已む禪行と學ぶ。後の衰
凶を招ことを畏。如此所行小生を誤。病軀とあるのこの天の
譴君父の責。世間の非評と一身小取。漸次小衰敗。遂小體を
毀家と滅小至んこと。あへともくも畏べんこと小あらばや。あ
る道理を審辨。深畏慎く儉と力を護持。身小稟得て
定る天祿といふものあり。そを儉蓄やう小とる計較。攝生
の第一あり。世間小常の食ととるものと。此ハ性あり彼人小
益あり。病もあき小喫慣たる品と嚴禁とること小あらば。
儉約小心と安むる人。常の食ハ薄味小。事足偶芳羞と啖が
殊小耳美おがえ。平素耳醜小飽足ものより。大小身體の滋

養とあるあり。家道小怠を努力もの。餘一日の閑を得て其嗜好
小心意と娛るとえ。ゆる。の昼夜歡樂と極ものより。情意と
暢身體の益とあること。浩大あり。假令ハ外襲邪毒と城と圍敵
なし。攝養小背く發病と麾下小。吾小倍ものあり。この叛心
のもの。城中小在とき小。敵小内應。城を陷る。恐べんこと
あり。何ある邪毒の敵の外を圍ものあり。保守嚴く。城中心
を一致小。米粟礮矢小缺乏。のらむ。藥の援兵との圖小あさ
ら。内外より衰く敵と却んこと。何の勞もあるべのらば。古の
善戦ものも勝やをき。勝といへり。その未萌小防禍の來ざる
小供と爲と謀の優ものと。小入の初を強く。慾と忍小あ

至。慾ヨクと思オモら爲ナシたきやうあると。慣ナレく常ツチとあると。至トクく易ヤスくと
あり。後の害ガイを畏オソる心存アヒべ。微物ミホモノもその程量ハカリと較ホシく慾ヨク小喫コキむ。況マシ
女色メナシと飲酒サケとや。惣サマくのこと其初ソノハジメ小畏慎オソレシムとせむ。過失ハマチあるこ
と更サラ小あるべのらむ。莫大バクタイの禍ワガヒ。須臾シユユの忍シムざる小ありとむ。こ
をいふあり。世ヨ小吾ワレら養生マヤシヨクのこと小疎脱ヌケかといふ人も。真マコト
小知シたるも少マシかり。烏喙ウヱの状シタテも青芋アヲモ小類似ニたむとも。毒ドクあるも
のとあるが故ユエ小強シムものあむくも敢アヘて啖クハむ。五穀イノクハ體カラダと滋養シヨク小
缺カクよれものと思オモべこと。求モトく食クラフ小らあらむや。こと烏頭ウヱと五
穀コクとを真マコト小知シべあり。人ヒトよく善惡ゼンアクの分シマツを知シこと。烏頭ウヱと五穀コクと
のごとくからば。過失ハマチあるはつけむとも。真マコト小知シ人ヒト少マシあると。小

の慾ヨクをも忍得シムべ。遂ツヒ小害ガイを招マキく悔クハとも及ぬ禍害ワガヒ小懼オソら。愚小
もほ哀アハレ小嘆ナゲキこと小あらむや。今イマとむらの弊アヤを救スズむ爲タメ小真
の攝生セツシヨクの梗槩コウケイを不フ説論セツロンこと左サのごと。大
夫人フウジンの富貴フクキを慕シタラむ。書シヨを讀道ヨミミチを明アキラむと思オモむ。英雄エウユウ豪傑ゴウケツの大業ダイゲツ
成就ジヤウジユせんと欲ホシむ。軀小病苦ヤマヒありと。其志ソノココロを果トクこと能アタむ。歡樂ウレシ
るべきことも娛タシみらむ。故小病苦ヤマヒある軀小くハ。富貴フクキ榮利エイリも才
徳トクあるも小、のへせん。人ヒト唯壯健タカヤカあること。世ヨ小存ナラフる第一ダイ
の福サイヒあると。其志ソノココロあらんものも先之マタノを知シんことを庶幾コトシカフべし。大
凡ヨソカラダ身體イニシヨクハ飲食チキの力チカラ小託ヨリく生イクこと活イカむのあり。先マタ飲食チキの攝養セツヨク
最要カンニキ也。食シヨクも過スギて飽アツとれむ。腸胃ハチラ膨脹フクレ。消化アノク頑鈍カンダン。身體カラダ漸シヂ小弛弱ヨマリ

ゆれり。氣血の運行遅慢あり。腹中閉塞とあるべき。癥瘕を結成。精神鬱冒。坐臥安らば。大病の原由とある。其他麤硬粘稠。肥膩物。惡臭ある物。及至酸。至鹹。品辛辣の過ものあるを。皆偏味と稱て常小多喫べたもの小あらば。と色を好く嗜喫バ。暗小其毒の爲小身を損害らる。まゝ體の大熱したるとは小寒冷物を多食ハ。運輸の機關を阻て宿病を動ことあり。體寒とさ小至熱品を喫もまゝと志のあり。又平素温飲熟食を好ものハ。齒牙の早損ざるのゝあらば。大小身の害とあることあり。さらばとく冷物のゝ小ても。身の滋養小缺ことあはば。常の食を寒温必適其中やう小用意べし。况性質とも辨は喫慣ざるものと。珍羞あり

とく喜で食こと。巨害あることあり。口腹の爲小身體を損害。一生を破過く。世の笑柄とあること。不孝不忠と色より大あるを。あ。利害を辨む。食を貪ハ。禽獸の所作あり。禽獸とら已小害あるものゝ自然と退く喫バ。馬の野草と辨別。狗猫の食品を嗅知を見くも察べし。人と生く禽獸小も劣たる行を愧ざるをいゝ小ぞや。酒を最偏味の甚其性猛烈物ハ。嚴寒の候小も氷を之を過喫ハ。益少害多。體小害あるのみあらば。人の家を以て國を傾るも。十小八九は酒の害あり。慎戒さるべけんや。飲食を節省ら格物の門小して。身を修身を保の尤先むる所あるハ。必放縱小をることある。忍ぶ慾を制さるべたことあり。

次ツキ小チホ眠ネムを制セイべし。喜ヨリ眠ネムハ怠オコ惰タリの心ココロより發オシここより諸シヨ病ビョウを生シむル因モトとある。多オホク眠ネムものヲ精セイ神シン漸シテ小チホ昏クラ闇クをマす。善ゼン心シン沉ウ没トクありゆくものあり。畏オシくフカク劫イ必ニべし。然シとク過ア小チホ睡ネムを強ヒく忍コシるヲあり。適ヨキ中ホト小チホ規キ則マリを定ツケて過ク不フ足ソクあるべし。冬フユの夜ヨを二ニ時トキ或ハ二ニ時トキ半ハ夏ナツを四ヨ時トキを其ソノ度ホドとス。夜ヨルハ早ハヤク寢ネ朝アサを日ヒの出デぬ前マヘ小チホ起オキるヲよシ。昼ヒル寢ネこと尤モトよリのラび。飽ライ食シクハ眠ネムを引ヒクの媒オカとある。喫ク直ス小チホ枕マクラ小チホ着ツクこと尤モト身ミ小チホ害ガイあり。酒サケ小チホ醉エビく臥フスハ壽イを短ミの理リあり。故ユ小チホもつとも戒イべきあり。

その次ツキ小チホ先マツ體カラダ容カタチを正タシしく。後ノチ小チホ息イキを調ト和ワべし。體カラダを正タシくる小チホの。坐ス小チホ端マツ直スあると要ヨシとス。脊セ骨ボネの前マヘ曲カマるヲあし。後ノチへ聳ソルも良ヨシのらむ。頭カミハ平マツ正ス小チホ鼻ハナと臍ホツとの準ト相ホリ對タイし。偏カタを斜シラを仰アむ伏フむ。頸ノドを昂トたるあし。肩カハ低タたるあし。急イらあし。眼メハ定トて。物モノを視ミとス。きハ頭アととも小チホ顧カべし。兩フタ手テを牽ヒ來キる身ミ小チホ近チカ膝ハ上ウヘ小チホ安オクべし。腋アキ下シタ小チホ鷄トリ卵タマゴ一個ヒトツブを容イれル程ホド小チホありたるをよしとス。惣スての用意ヨウハ。腰コシを以モツて小チホ腹ハラを前マヘ推オスやう小チホをヒきハ。臍ホツ下シタ小チホ力チカラ入イる下シタ腹ハラ小チホ氣キ充ハリ實ミチ息イキも臍ホツ下シタ小チホ至トる胸ムネ肋ハラ心ココロ下シタ小チホ支サものあく。週サ身レの力チカラ臍ホツ下シタ腰コシ膠カウ小チホ在アルことをかハ不フ申シべし。漸シテ小チホ習ナ慣レるのノ後ノチを。あらち小チホ力チカラをモ用イむ。自シ然ゼン小チホかく爲ナ得ルやう小チホありく息イキの喉ノドを出入イ入ニを自オと知チさるやう小チホあるヲ。吸イ呼キる鼻ハナより出イる臍ホツ下シタ小チホ納イり。臍ホツ下シタ小チホ出イる鼻ハナへ泄モレる後ノチ小チホハ耳ミミよりも發タ騰ケ理リよりも出イる。長チカ壽シユの

人の耳ミミ小毫毛ホソキケの生ハユルら。吸呼調イキトシヒく精神ココロの檢束符驗也オクサマシムルシルシ。口クチら一切閉サイトギたるタるルおオふフ。行住坐卧タチヤオキフシとも常ツヨク小上下ウヘノの脣クハ合アヒたるトをユいハとハ。痲疾諸症カンシヨウサツシヨウカタヒコハリノボセ。肩背強急カタクシヤウ。上衝眩運ウヘノ胸腹支ムネハラ滿ツカヘ。心氣鬱結ココロノフサギ。癥疝拘攣シヤウヒンキウレン。及婦人子藏諸病等ナリナリカタクワラヒト。此術コノビツを持モツく其患漸小治ソノウヒシヤクべし。坐ウマく行オモフことこのみ思オモフべシのらラびビ。行住坐卧タチヤオキフシとも小この意ココロガチを用ヨウとス。歩イユム小チ手テを體ミ小牽來ヒキツケく下タレ小垂コビ。四指シユウシ小力チカラをこめコく。拇指オヤビを掌テヒラキ中ナカ小握ニギやう小チきキ。自然シゼンと臍ホツシタ下シタ小氣キ充實ミナきたり。腰膝コシノカタ小力チカラ入イり。脚步アシノフミ輕利カヨクナリて躓ツツクことナく。習慣ナラヒテヤム止トことナきキ小至イタレべし。運歩アユミの機會ハタラクキハ腰膝間コシノカタノマダ小チあハらラざるコトをサトル自覺イサカべし。寢イヌ小チ右ミダを下シタふフくク右ミダの脚アシと展ハしシ。左ヒダリを上ウヘふフくク左足ヒダリノアシと曲カマ手テを牽來ヒキツケく腿モのノおオへヘ垂タレ小チ

腹ハラと前マエのノたタへ張出ハリイダしシ。足心アシノココ小チ心ココロを至イタラしシめメ。足アシの大指オヤビと運轉ウツカスこと七八度シチハチタビ。其中ナカ他タの念慮ネンロを發オコことナあハるル也ヤ。他念タノコトもモ發オコバ咒文ジュンまたるタ佛名ブツナ題目ダイモク小チも心中ココロノウチ誦ユクあハらラ睡ネもモよヨしシ。或アルもモ寢イヌるル小先マサ仰ウツくク兩脚リウキヤクと伸ノビ。兩手リウシュを以モツくク胸肋ムネハラより小腹シタハラ小至イタまマく平心ヘイシン小チ撫摩ニテサスルことナ數十遍スバシツバシ。そノきキより腰腕コシノツツより髀ヒの方カタへヘあハるルべシ也ヤ。けケ兩手リウシュと伸ノビてテまマと撫摩ニテサスルことナ數十遍スバシツバシ。後足ノチノアシの拇指オヤビと徐々シヅカと動轉ウツカスべし。惣スベテて胸肋ムネハラと按オシふフ。輕カヨク鳩尾トビノビより臍旁ホツシタノマダまマるル中ナカ小チ。小腹シタハラへ至イタてテるル重オモシ。そのノあハるルをニテサスル撫摩ニテサスル意向コノコト。假令タトヘハ畫師エカキの五彩ゴシキを設シむムことナく。沸湯ヒユエを盛シたるル器ウツを持モツむムことナく。いハるルもモ靜シヅカ小チ疎脱ソソクあハらラぬヌとスよヨこトもモ其後ソノノチ右ミダリと下シタふフくク腹ハラと充張ハリて睡ネありリ。こノちノらノ法ホウもモまマとスよヨ

朝起アサオキル小ニガ卒トコ小卧床トコを出イ先オホ端坐スワリ身カラダ體并諸支節ニフシヤを挺動ユリカスこ
と數遍スヘンの後ノチ兩手掌リヤウテと膝上ヒザノウヘ小安オキさく口ヒラキを開ユルて綿ニル々クと濁氣イキを吐ク
こと三四遍シヤウヘンどきより口トチを閉ハナく鼻イキより清氣イシを納ホて臍下ホツノシタ小至イタら
しむることスヘンは十數遍ジュウヘンしう放解ヤメ徐々ジウジウと床トコを離ハナるやう小ニガと
ること殊ニトセラよし。癩症カン癥瘕シヨウ或ラ婦人ランナの子藏病チカタンノワツラヒミナコノ皆此術ジユツと護持マモリ朝夕アサユフ
行くオコヒ歇ヤメさきクシヤを藥クシヤと服クシヤせしう歳トシを經ヘたる病ヤミを治イセべし。世ヨ小難治ナンチ
とさるオコヒ痲病マツマツ痿躄マツマツ及一切廢殘病コサレヤミもまハフこの法ハフ小從シヨクく間効マヒと見ミ
ものオコヒあり。小兒ニガの搐搦ヒクツキ癩疾オヤツマの類ルキも此意ココロと擴充オホヒロメて藥劑クシヤリと退ヤメと
と按腹アンブクの法ホフと授オシて愈イユたるオコヒあり。とオコヒべく持病ヂヒヤクあるもの、寢イダ
とオコヒ小ニガ最精神シヨウシンと平定ヘイテイく雜慮オモヒと放臍ヤメ下小氣ゲキの充實チヨウジツやう小ニガ

て眠ネムこニガ小ニガ其効尋常シヨウジョウの藥クシヤ小優コユウこととほし。此小演コダマるもその
梗槩コウカイあり。伎藝勤仕ギギクシのあひオコヒども。飲食應接オウジキオウゲツのむオコヒまも。この旨趣シヨク
と離ハナむ。修習シュウシユて止ヤメさオコヒむ。威儀イギも自嚴整ジゲンテイ身體カラダも壯健ソウケン小ニガあるもの
の。智慮チリョも漸シヤウ小増發マシヤクて勇氣ユウキも出ぬイデべし。こカダ形カタチより心ココロを調和テウワる
法ホフあり。

こニガ小續コジツクく心ココロを調テウワることと學マナブべし。こオコヒ放散氣ハツサンキを收ユメく身内ハラウチ小
充實チヨウジツし。心意ココロ和靜安定ワジテイく。妄マダラ小外物モノの爲タメ小昧コメさオコヒと轉倒テンドウをオコヒこ
こオコヒあらニガしめんニガの爲タメあり。怒イデく人の體カラダも上部カミ輕清コウシヤカ下部シモ寬裕ニツタリト
あオコヒは必壯健カナタカ小ニガ病ヤミなく。假令タトヘ外襲邪毒ゲイジヤドクの侵劫ウツラヒありとも。多オコヒ
ら大患ダイケン小至コシどニガして平治ヘイテイべし。分ハフあオコヒども。平素ヘイソこの心ココロの攝録セツロクの

たく轉倒テントウをる小コより漸シビ小胸腹ムネハラを上ノのたへ攀引ヒキアゲく諸藏ザウフの位置チイマヒありくるを癥瘕シヤクと結成コレラ拘急ヒキツリと作發オコシ經脈ケイミツ上部ウヘノカタ小逆流サカヅケ易ヤスキの故ユエ小藥石クネリガリの力の及ツキざる小もいたるあり抑ソマ六の心を轉倒テントウせしむる其起原ソノオコリをの貪欲ムサボリの念相續ココロイフイぐ止ヤマむ求モトむ小苦クシえ得ウルては小怖失オシクシへハ瞋イカリ一切心イツクハシを惱ユキむる小あらざるものあく日と逐年ヒトトシを經スル小從シタガヒく昏闇フツクラ小ありゆき調和トウワさる小至イタる漸小飲食シヨウモツの消化コナレを礙サマシ氣血キケツの運輸メクウ遲慢アヒクあるが故ユエ小吾ワガ一身イツシンと主宰ツカサドをス入イの元氣ゲンキ其職シヨクと失内クシチの守固モリカタあらざ外ソトと防力ヨウリキ微ヨクあり外襲ゲワイ邪毒ジャドクとの隙ヒマと伺ウカヒやをス加ヒ之ノ懊熱オウネツ噴泪フンレイ執拗シツアウ踈放ソウハツ相續ソコヅクく斷タテざる小至イタるこを已オシむ性格セウゲクありと自裁ジサイ量リヤウて放肆ホシイマあるが故ユエ小痼癖コリカマ失治シツヂ疾病シヤツ其

根ネを固カタくいある治術レキヤクも効レヒを奏オウことなき小至イタる予今世間コノヨノセカイ小所謂コトイハル癩證カシ癥瘕シヤク及一切廢殘病イツクハシヤマヒの其所由ソノオコリを詳シヨウ小をることあるものこの心の調和トウワさるより藥治クスリの効レヒあるものあることと的テキ實シカ小知シルる故ユエ小を色イロらの爲タメ小暫權シヤクワン小體タイと息イキとを調形トウケイより之を治チをること人を小教オホシく多其効オホクシを得エまス庸人オウジン婦女メナあど小を歌ウタと誦トクく身體カラダを按摩オチサス法ホフを授オタくことを行オスく多年タチンの病ヤマヒを愈イナす藥クネリ小優マツる驗ケンを得エるも是捷要便コレハヤマハリ宜法レカク小く其實コノシツをいふときを體カラダといひ息イキといふもをこより吾心ワカの外ウヘ表オシあることと假令カクハ影カゲの形カタ小從シタガヒひ響ヒキの聲コエ小應オウむることと相離アイハべきもの小あらばこの心をだ小調得トウトクる體タイと息イキとの別ベツ小調トウることを用モトび

て自然小其則小協カウこともとよロシ論ロシをし。心ヒロ廣ヒロけきヒロ體タイ胖タイあり
この古言フルも。この心モの外物タメの爲タメ小動ウツさきユレを寛裕ユレあるユレ。其内ソノ小
充實ミツルとあるの氣宇キウの外オモテ表オモテ小形スミ。身體カラダの運ハタラキ爲タメ動作ウツク自然シゼン小安ノビ恭
舒暢ヤカ小あり。容顏カタチ嚴整ケンセイ言コト行ユウ詳慎シュウジンあるといふ言コト大オホのコト此ココ小同トウく。
まマと觀相カンザウ師シの傳デンるコトと聽キク小。心ココロ小沈憂クワク望クワク慮リョあるものも。頭前カシラ小垂ス
て。眉間マユマ準頭ジュンズ小闇味ククモリ色シキと現アラハ。失意シヤク坎壈カンランあるものも。背曲セマカく坐容マウリヤウ
正タダのらら其息胸シキムネより出イデく臍下ホクゲ空洞カラツボあるものも。かかくのごと
に相サウあるものも。性質キヤク依樣イザウ摸糊モコ一切サイケツ果斷カクダンなく。も一病ヤマヒかと
小罹カレキち多オホクる危篤アヤシキ小いたるあり。ままと時トキ小乘アツものも。面仰オモテ項長キョウチヤウ肩
張背直ハシラ眼口メクチ光澤ヒカリあり。起坐タチサとも小穩重レトウカ小。智慧チエふのれものも

眼光清爽メノヒカリ胸腹舒暢ムネハラ小見也ミヤカるあり。かかくのごとに相サウあるものも。
いのある危難キナン小逢アツことあても屈撓クツカことかく忍耐ニンヤク遂スエ小禍コト
を轉テント福サイヒを得エ萬事成就マンジケウジをといふものも。愍ミンく心裏ココロウチの所有モトメ
の外オモテ表オモテ小現アラハものを相サウく知シルこと。醫家イカ小所謂イハユル四診シシンのコト一ヒト小望バクとい
ふものあるものも。ままと病ヤマヒの色相イロウヤ小顯アラハる者モノを診知シシルの意相イシヤウ似ニたり。の
く外候ソトヨリの著イハレきものあるは。假令タトヘ心内ココロウチ小邪慝ヨコレマを挾サシ外表オモテを慝慝リヤクの
人ヒトとトかかももいいせ。庸人オウジンと欺得オモケるとも。十手ジュウテの指ササところ畏オソべたのそ
あららば。達者タクシャらとの眸子メザシを視ミても。その心裏ココロウチの正邪セイセウを察サツをべし。
且カ己ミの心ココロの欺得オモケべのららさることへ。試シ小獨居ヒトリて他ヒトのそるめも
かく聽キクことともあるは。吾心ワガココロ中何事ナニゴトをヲ思オモヒ何等オモヒを欲モトムると省カヘべし。

昔より傳つたところの華陀カワダの五禽ゴキンの戯タビも、婆羅門バラモンの導引ドウイン法ホウも善ヨシのらざる小ハあら孫ムコも婦女子メノコを
 小も施セのたれたとあり、今こ、小舉コキョウところハ
 歌を誦スく身體カラダと撫摩フマ術ジュツはしく、ことごとく一ヒト所トコロ所作ソウサク
 小もあらは婦女子メノコ老人ロウジン體衰タイサイたるものといへど
 も行ユクやをく効キコウと見ミをよともまよ優ユウとり、その法ホウ
 ち所作ソウサクことごとくといひてのち、肩カミへゆき、腰ウシロ衣イと
 着キ心ココロと志シづめく、肘ヒジ小入コウ、仰ウツ小肩コウカミと頸ノドの間と
 ちるくことごとくつろけ、両手リウテと身ミ小着コキて下シタた也、兩
 脚リウカクと伸ノボて惣身ソウミ小いさ、るも滞チとるなく、たと
 へて死シたらんちかくやとおもふやうなる形カタ體タイ
 小なりく、先口センクチと開ヒラて、臍シ下カより息イキと吐出トッと一七
 遍ヘン小しく、口クチと閉ヒ眼メとふさだぐ、心ココロ志シづめく、小両手コリウテ
 と以モて胸脇キョウハツより小腹コウブク小いたるまくと撫フかろを
 小と、歌三七カサチへんを吟ウタる間マとくと撫フは、是コノ第一ダイ術ジュツ
 也、後ノチ兩腿リウタイのつけ孫ムコより腰ウシロのほひへつけ、内外ノウガイ
 を映ヒキのかさへ、るるく力チカラといせ、掌テのこくと
 とおろまよ撫フかろをこと、歌一七遍カイチヘンのあひさ、こ
 也、第二ダイ術ジュツあり、とせより兩脚リウカクとをり、足のアシ大指ダイシと
 ゆりうことごとく、歌一七遍カイチヘンのあひさ、こ也、第三ダイ

第一術



両掌とをり、
たるらふと
ころとをむ

術ジュツあり、以上イゼン歌三十五遍カサジュウゴとるく、と誦ス惣ソウてと、ハ
 たらバ、そのま、小まさく以前イゼンのことごとく小惣身コソウミ
 とゆるやの小しく、いさ、るもとりたることと
 と、こかりたることと、臍シ下カのいたらむることと、三七
 遍ヘン、このことと、ろをもちひく、他のホノ念慮ネンロとをふさ
 ぐ、このことと、ろをもちひく、たひことと、鼻ハナより出
 して口クチと一切イツセツ開ヒラこととあるべし、癢イタ癖ヘクあるもの
 や、もをせ、この息イキを、その塊カあるところよ、支サ
 らせて、臍シ下カの小いさ、このふものあせと
 も、日ヒとのさ孫ムコつとめ行ユクむむ、必カナラ臍シ下カ及および
 るものあり、歌ハ萬葉集マンヤクシュの田タ口クチ益マシ人ヒト大夫ダイフ
 の詠ユイたる、いほむらのきよと、ささたのみわのう
 らの、ちさけきみつ、ものもひもあし、このふ歌
 なり、この句中クチュウ小ものおもひあし、このふことと
 小つきくおもひつ、くくる小、かよと心ココロ識シ小あつ
 る病ヤマイ自餘ジヨの諸般シヨバンも三因サンインありと、いへど、まづ
 るものたもふより、識シ神カミのつ、耗コウ減ケン室シツ塞サイても
 ろくの病ヤマイをひきいさげ、こととをせ、この歌こと

第二術



頭と肩との
くつろみ
心を注ぐ

よき厭勝あらめとく。人小さづけ受持しむる小。驗りまゝ多し。かの明の龔廷賢が醫書小載たる道家の暮臥咒も。そのころえらめたること也。をべく咒文のこゝの歌のおとく。彼西竺の陀羅尼のいのへるも。韻響のあること。頌小ひこく歌ふおとく。ちよ小よくその旨を得く此術を行ん小。頌小もあは歌小もあは。人々の好樂小まるせてよし。此法をためぬ痛證小く夜寝こと安らざるもの、ため小まうけし。その後こそ婦人藏躰子藏躰急および癥瘕小く心下苦悶胸腹臍下小動悸ありて。眩暈頭痛常小發し。年をさねて愈さるもの。あるひは長病體疲心氣乏少もの。まゝハ留飲諸藥効をく年久しく惱む。及癆の斬あるもの。腹痛腰痛の治りおたれ類小施て藥小優る効を得ることあり。あるひは妊娠胎動小も。胎倚側く腰脚擊急起歩小惱り小も。ちひく効あることあり。孕婦無病をものといへども。その孕ことと知てのちハ。毎夜急なくこの法と行く。母子とも小大ある益あることなり。その意と得るのちハ。おのこく

第三術

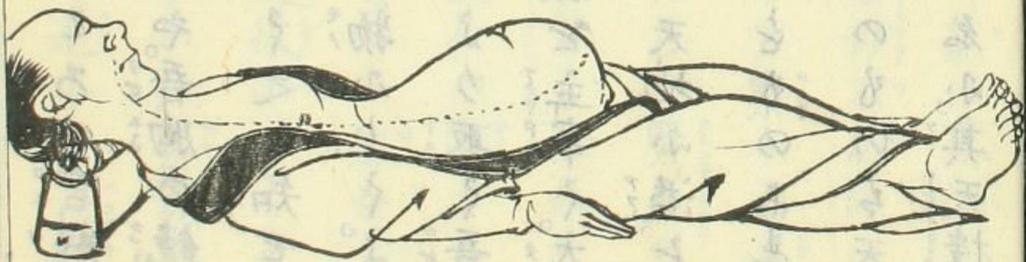
大指とくのことくかたて
左右一固小
動とるり



か作畧小く。いのやち小も便宜小まのせくよろし。然也。さりとけむのよりこの旨趣ともち。その人の機根小志のひて。痼證の治術小効を得。その氣質までとも轉せしめたること。舉ておどへおとく。藥ともちふる小も大なる助とるることあり。さへく臥寢安らば。睡て覺る、類まゝハ夜ごと小眠うね。あるひは夢小人のおの色をころさんことと見ておどろき。まゝとく死葬のこととやめみてのち。さへく臥たる足を入小とらへらる、とやめみまゝハ高きところより墮落ささくめさめ。あるひは入小逐さく逃奔ゆめさめて。惣身小汗出ると惣く寝こと小。この安らざるもの。皆痼證小屬もの小く。予おこの按腹の法と急を行なハ必愈登し。その身心平ふるは。かゝる症ハ自發ぬやう小あるもの。あれハ。ひろく是と人小も傳て。多年の患を除くべし。そのこ淺近なること。のやう小おもはるべし。其効を爲小いさうて。尋常の醫師の藥を用ふる小も。さるう小まさるること。お色ハあり。

三術行終く
息と數る狀

こハたつこの
息の鼻より入
肺下小いさう
高らつろき小腹
小氣の満るこ
ろと圖し
て色ハそのや
くみるべし



まゝ人小交の應對をとめ。口より出ところの言辭吾意裏小
思念ところと一致あるの一致あらざるや。吾胸の鏡小照見色
ハ善惡黑白既小明小之と知。その心小在る之と知ところの靈
妙あるもの識神あり。是乃不生不死の物小しくよく形あり
小視聲あき小聽幽真測知べらば。もとより取る吾物とを色
ども。たゞ志をらく此軀殼小寄寓。元氣を主宰。大氣を吸呼
しめ。暖と命と識とを保しむる。その徳々天地小溢。その體々鬼
神小同く。も一吾心小塵芥も惡念の根さをもものあは。已の智
辯を以て揜隱ことあたはむ。吾知ところのもの天地も鬼神
もこをを知。天地鬼神既小こをを知。のゆゑ小。其天授の數の盡

るを待。必其報と與ること。もこより一氣の感應をるところ
小しく。更小怪むべし。小あらば。る靈妙不思議の識神あは
ハ。此小在る彼を知。既往を識。誤を未然と察。違は善を聽
ハ善と知。惡を視。色ハ惡と思。こをあをち小賢愚の差別小由
小もあらば。わと吾心を欺得べらざるものあは。眼耳
鼻舌身といふ隔礙をあは。喫食ハ死被ねハ寒るといふ。この
軀殼を保たは。假令大徳の人ありとも。この慾ありとら。いふ
べらば。の眼耳鼻舌身も。と心の使役小しく。その命を待
ものあは。ども。眼小ハ美色。耳小ハ淫聲。鼻小ハ芬芳。口小ハ飲啖。
體小ハ輕暖の欲と具。厭足ことを知。遂小ハ浮雲之榮。一枯

世小誇權威を弄て人を輕くむるふいたるの譬ハ雲霧の中
小在る四隅を辨ることなく。燈炬をくく。闇夜小險路を行
ごとく。遂小を人の善悪を察ことある小もいさりて。その危
ことまといの小どや。かくて却る心を以て形の使役とあり。
君臣その位と換るもの小似たり。かゝる心の轉倒より。遂小を
胸腹諸藏の位置と失。沈疴痼癘病小身を苦て。其天年と全を
人世小少ことまとい知べし。今この心の調和さるより。發病の大
槩といえ。とべく。瞋恚の心小絶さるもの。および喜怒の情安
小動や。とれもの。やゝもきき。狂癩癡騖。瘕瘕。昏冒。頭痛。眩運。
腹痛。拘攣。沈睡。諸病を發し。やとく。或る肩背強急。癰疽。發背。ま

ハ急非緩。癩癘。腰脚痺痿等病と生を。左をたれ。吐血。下血をること
あり。鬱悒思想の遣のぬるもの。癥瘕をいふま。くもあら。癩
症。癩病。足痺。痿躄。喘哮。勞瘵。鼓脹。翻胃。膈噎。胸滿。背痛。婦人子藏
諸病。藏躁。漏下。半產。不孕。月信不順。及產子不育の類。ある小い
る。世小所謂留飲といふもの。もまとい。こきより生。飲食不化を
ま。く霍亂等を發するもあり。か。卷尾の看病意得の條。二の
卷の飲食禁忌の編。小記たること。ともを參互。其大要と察へ
し。その他の病心の調和さるより。發もの。預敷つく。の。こ。も
其心調和。て身體舒寬。したるもの。も。安。小發揚。過喜暴怒の
氣血と鼓動。こと。も。なく。抑鬱。ら。と。く。憂愁。驚怖。困迫。疲憊。の。腸胃

の運輸と礙昇陽の機關を遮ることあらねば。元氣の主宰を
の職と遂ぐ。上諸件の病を一切發ことなく。まゝ足ことを知天
命小任。吾身の榮辱世間の毀譽のため小情意を動ざるものも。
其心安定く静あるの故小體も息も自然小調和。喜怒哀樂の
境小逢といへども。決一く昧さと動さるゝことなく。身と毀天
年を損むる不どのことあるべからば。こゝともつゝ病の原
と塞く健あらんことを希ハハ。慾念を省て心意を調小優さる
ことある益あらばともいふ也。然と肆欲のため小身を過生も
つゝのぬ病と得く。世小存るのひもかく困厄さるものある高
位重祿の人ありとも尊とさる小足さるもの小とあるは其志禽

獸小近けとバあり。此編述ところも。聖人の身を修心を正さる
の教なるのうへ小食。眠體。息心を合く五調和と稱るも。もと予
の新小構たること小あらば。おもふ小鑿の病を治さるもま
たあの道の外小出ることあらざとバ。今庸俗の爲小。その梗槩
の尤淺近小。一通りやを記しもの記しと論ところをさとも。
猶解し。のたく及たし。をかもふ輩もあらば。先飲食。睡眠の則
と節のまたと體容と呼吸との二を調ること。を學で試る。各
其行易小由好ところ小從くよし。そともあを爲難ものも。歌を
誦て體を摩擦る術ありとも。又經久行て止む。其効を成小いさ
すてち。五事とも小自然小調ことを得ことあるべし。故如何と

るにバ。此五車をこくく吾體裏のものより別あらば。相離
るもの小あらざ。唯知者を實理を明かして。内より之を外小及
まの故小易く。庸人を權道を守て。外より之を内小達せしめん
まをるが故小難と雖いづまも人々の便宜小任。麓の徑を異
にし。遠近遅速ありといへども。歩を運く止ば。遂ゆる其顛小
降く。眞の攝生の道を得。よく其天年を保全し。病をくして死を
善せん人の世小多あらんことを欲まバあり。

妄小藥を服べらざる心得を説

病ありて醫を招ふ。その説をこる人ごと小一致ならば。病家も
何を是とも非とも辨知こと能く。疑惑く決つたき。切當ぬ藥

を服よりも。先消息く病の轉化と着の懸小絶ことあり。然と
強てこそとト籤あど小く決斷せんことを尤失當なること
なり。其故いふとあまバ。その請んと慮醫師の皆麤工小く。
病因を察得む所措的當ならぬ輩あらん小。其名を記載てト籤
小決しあバ。その中必一人を其撰小應べし。さまごその定らま
たる醫士もあなト賤工のうちあまを。藥を服く効あま小まご
もや惑を發て再醫を換んと慮べし。その時小至くハ初のト籤
ら虚構となる。この神明を輕蔑の罪何小の歸べた。もし止こと
を得ばト籤小決せんとかもハ。微も我意を加む。世小名望あ
る醫士の見識ありて治術小心を潜もの數輩を擧て。その應と

ころの醫士已オシの意ココロ小満カキスととも小も疑ウタガハシむ病者ビヤウジンの死生シセイととの人
小委オカセて天命テンメイ小任オカシる心ココロあらば。神佛シンブツの感應カンオウもあるべしことあり。
ささどか、る決斷ケツダンある人ヒトあらば。卜籤ウラナヒを用ヨウる小も及オスむ事コトと一
心小決ケツべけきば。いづも小もト籤ウラナヒの無益ムギあること知チぬべし。故ユエ
小病コビのありきもさらあり。術ジュツ小精ケイき醫イとも知得チエむ。但庸工ヘタイレヤの
述シユルところ多途オホタチある小惑ウタガハシく。其處置ソノチアテと錯アヤマりより。まづ少時間シヤウジカン薬クシヤクと
投マキむ。その動靜オウセイを察サツし。ことを古人コジンも病ヤマヒあり
て薬クシヤクせざさば中醫チュウイと得ケルといへり。中醫チュウイといふも中等チュウジヤウの醫イとい
ふこと也。上醫ジョウイも病ヤマヒのいまど發オコらるるさた小治チし。病ヤマヒと一オコら發オコら
ぬ。中醫チュウイも病ヤマヒあり。薬クシヤクを用ヨウる小過失オホヤマチなく。必驗カニシと得ケルものとい

ふといへば。その中醫チュウイといふものも凡庸オホウの醫士イシといふ小もあ
らばと知チべし。こも異なる薬クシヤクを用ヨウる害ガイあることを戒イハむる語コト小
して。凡人オホトクの病ヤマヒも天命メイ小由ヨルものあるを。理リ小背ソムキする療治リョウチを為ナシふ
りも。廢置オクく自然シゼン小從シタべしことを論ロンし。俗家ソコウカの了解リョウカイのさ
きことあるらも。今其大旨ソノオホマシの道理ダウリを此ココに述シユルるを聽キ惣ソウて病ヤマヒの熱ネツ
を催モトメも腫瘍シュウヤウの膿ウミを成ナす。悉皆ソトクダシ一身イツンの元氣ゲンキの其病ソノヤマヒ毒ドクを驅逐カクシユく。體カダ
外ソトへ排除ハライんとする。自然シゼン作用ハタラク力の為ナスところなるを。醫イとたゞ其
足タラざる力を戮タスく。病毒ヤマヒ小對抗オウゴウ元氣ゲンキを負オケざらぬ。ため小。薬クシヤク
石鍼灸シキウを用ヨウる也。作用サウヨウ力リキよく病ヤマヒ毒ドクを排逐ハライし。有餘ヨリヨキも強小灸薬キヤクの
力チカラを頼カり及オスむ。病ヤマヒも自然シゼン小愈イユへきあり。但氣血キケツの運輸ウンブ小

次定限あきバ。頓病を頓小治をべけきども。漸病を漸小治をる
小あらねバ。効をたものなり。凡く病小日数の定期あること。ハ
こり痘瘡麻疹の眼小見えやきもの、み小あらど。傷寒瘧痢
かよび一切の病小。皆其定限あきバ。いゝ小強て過小治さむと
慮こも。その期を經る小あらねバ。決一々愈もの小あらバ。竹木
刺の肉中小あるものを見よ。自然作用力の膿を醸て排除小日
數を經るごとく。又蒼卒の微感冒を曲肱假寐より得て。そのあ
ひと喫煙一二口小ハ過さきども。寒氣小勝理を犯さきて後々。
週身小微汗を得小あらねバ治ことのみ。その時刻を經るを
も考みよ。况惡寒を水と沃るごとく。大熱を燉るごとく。ハ

食味も失起卧安のらど。輕易ならぬ疾の速小愈べり理をんと
あらんや。或も下疳瘡より漸小蔓延たる微毒。まゝ手掌より惣
身小浸淫たる肥前瘡等。或も數年腹中小鬱結する癥癖のごと
き。其他一切年月を累する疾の卒小治べり術をきのび。非癆の
類も暴小發やうききども。皆内藏小損害たることあり。以
漸發動の故小。頓あるやう小見えくも頓小治ぬあり。世人も
此理を知り。この醫藥偽鑿の詞を信ト。一週二週の日數を限て
治さんといふを喜。まゝ遊辭裝證ある醫生の劑を用く。治へ
き期を失或も巫祝の言を信ト。無言脈を實さかひ。夢想の妙
藥名灸の等を嬉鑿者の方角を撰あるひと俗家の一知半解を

る鑿按イアンだく小。妄意ミダリある治療チレウを施ホセ。再得タビタビたき父母の遺體カタクを
毀傷ソシヤクこと。大なる過失アヤマチと知シラざるや。故小藥クスリも病ヤマヒを治イハとべたもの
かまごも其應否オウオウをも辨シキルむ妄小服ミダリべたもの小らあらば俗人ソコウジンを
此理コノリ小昧クダラシく。藥クスリとた小いへば。死シべき齡イナチも延ヒキやう小かもへど
も穀肉果菜コクニククワサイの常小喫ツチもの、外小藥クスリと名ナく疾ヤマヒを治イハべたもの。
偏味ヘンミからむ毒ドクのなれ品ヒナもなきことなり。故小病小應オウとせば効キウ
を奏オススぶことく。應オウぜせば其害ソノガイを生シヤクむべし。无妄之藥ムバクも試シべの
らびとも。古聖人コセイジンの戒イニシかり。世間の麤工イシヤの所措シヨクを見よ。頭痛ダウツウとと
いへば。方書ハツカキの頭痛門ツツウ小く藥クスリを調トクて與ユととも。かゝる十頭痛ジュツツウ小も
傷寒感冒ヤクカンヒキカヒもあり。中暑チュウシュもあり。微毒カカリもあり。癥瘕シヤクもあり。蛔蟲ウイチュウもあ

り。乃至マタハ經行ツキヤウ不順フジュンも。子藏病シノミヤも留飲リウインも。酪酏サケノエヒも。停食テイシキも。注車シュウシャ船フネも。擲チキ
撲ヒキも。痘瘡ハクサウ麻疹ハシカの序熱ジヤツもあり。病因ヤマヒノエト各異オノオノなり。仍ヨリく藥クスリもその病ヤマヒ
因インとさへ治チとせば。頭痛ツツウも支症シヤクをさへ。別小頭痛ワケツツウの藥クスリとくある
處ダケに道理ダウリもなきと。その病因ヤマヒノエトと正小認シラこととのならぬがゆゑ小。
先頭痛門マツツツウ小く藥クスリを與ユる。たとへば劇場シヤカを看ミる泣ナクもの小予コトと
いふおごとく。故小眩運メマヒとといへば。眩運メマヒの加味カミとく藥クスリを加へ
腰痛コシイタムと訟ソウとせば。腰痛コシイタムの加減カケンといひく一二味イチニミを増マシと。その證シヨク小
のく拘カウる方ハツを處ツクるゆゑ小。患症多岐ヤマヒノエトとせ小。一方二十餘品イチヤクニジュヒン小
過スグものあり。大小晒ソウべきことならびや。かゝる拙伎シラキを捨スツんと。專セン
人の氣キを釣トル口給イヒトクと壯時ソウキより里熟ナラヒく。世事小儂カシコき雄辨オウベン饒舌ニウゼツ小眩惑メマヒ

この悟サトルどいくや、才サイ智チあるものといへども、遂ス小コちその弊ヘイ小コ
小コ陷オチる害ガイを招マコ小コいたるあり。故ユ小コ病因ヤミを確シカ知チことかく。痰タン積シヤク血ケツ
積シヤク風フウ勞ロウ血ケツ勞ロウふども、詮イヒもかた名ナを稱トク婦フ人の病ヤミを一切イチ血ケツの道ミチと
いひ。あるひも瘀フ血ケツの所ツ為サとあり。小コ兒ニの病ヤミを惣スベテて蟲ムシままとと痺シビ
とよび。知チぬ病ヤミの留リウ飲インとい。肝カン火カの亢カウ也ヤ急キウとい。ままとと肝カン經ケイの濕シツ熱ネツ
あるひも昔ヘキの疲ツ弊カレの出イたるあり。心シン氣キの損イ痰タンの所レ為サとあり。遊ユ
説トクの類レ皆ミナ世セ間カンの鑿イ者シヤの通トウ弊ヘイ小コく。こことと病ヤミ家カうけのよよ記キ詞ジと
ちいふあり。とときも實マコ相トウと告ツとも辨ワカ知チままととかかももとと。聊リウ害ガイを
き小コ似ニたたととも。鑿イ師シも自ジ覺カクぬままの遁タ辭ジ小コの、鑿イ按アン小コ氣キ
をとるふたかあるべし。自ジ己ジも若ニく失シ慮ロても。投トウ藥ヤク小コ効キウの有ユ

べき道理ダウリをく。その愈ユるも自然シ作用ヤク力リキの運ウン為サあること知チべし。
此ヘ旨シを了リョウ解ゲささば。庸ヨウ鑿イの為タ小コ幻マヤカささ。君キミ親オヤの病ヤミもかかももととぬ
不フ忠チュウ不フ孝コウの罪ツミを得ケルことあらん。こことと孝カウ子シ忠チュウ臣シンの尤モト知チもんんばあ
るべのらざることあり。親オヤ小コ事ジるものも鑿イと知チもんんばあるべ
のらざるといふ古人コジンの教オシとあり。小コあり。この意向オモムキを會カ得テンとるこ
と。此ヘ小コ世セ小コ所シヨ謂イハ攝セツ生シヤウ藥ヤクとい。病ヤミなき小コ常ジョウ小コ藥ヤクを用ヨウる。たたととへ
バ泰タイ平ヘイの世セ小コ干カン戈カを事コトとい。晴セイ天テン小コ傘サンを執シツ役ヤクを着キととく。損シ
多く益エキを決ケツととかきことととも知チべきあり。鍼チン灸キウも病ヤミをくても
用ヨウべのらざる。況マシテや火カ熱ネツ小コ耐タイるたたき小コ兒ニのささせる病ヤミもかか小コ養ヤウ
生シヤウ灸キウといふ類ルも尤モト弊ヘイ習シヨクあり。いいるある術ジュツありとも定サとる人ヒト命メイ

を灸藥のいゝ續延の理やあるべき故小の延年益精藥を
いふの類も皆人小淫慾を進る。奸佞者の所爲小くや、志ある
もの、用ること小あらむと知べし。この理を明て。疾あらハ命
を天小任治を鑿小委ていさ、のも貳なきを真小天命を知
る人小ちいふあり。いさづら小庸鑿の辯舌。俗人の異議小昏迷
る。譬ハ船中小在る汝路も知ぬもの、支揮を容おごごとく。忽風
濤の難小逢る。覆敗を免と。故小船中小くも。天氣海程小熟
る。舩人のいふことあらむと取證べらば。鑿もまこと然ありと
知ざるハ愚あると小あらばや。鑿と撰むき意得ととく

親小事ものち鑿を知さんハある處らむと。古人の言ハ鑿
術を學べといふこと小あらむ。其世小聞る鑿の巧拙を預知
く。親の病あるとれ小治と乞小。錯失なきやう小との論あり。鑿
の術ハ人命小係ところの重任小く。いあかと才智ある人の
精修て其道を明小し。且病者を衆多診察し。療治小意を研ても。
あほ得ところと得ぬところとあり。其妙境小到こと小尤難
ここあり。ささハ季康子の賈し藥を孔子のいまと達せむとの
たまひく。服たまたぬを見ふ。況や凡庸の人をく。親小事んが
ため小鑿術を學しむ。その見聞ところの鑿説を心醉臆斷偏
見小まらせ。或た紙上の理を的小し。經驗もとざる藥を自

ヒとりて。その親の病小進マキマとることもあらむあるべし。かくても
害ガイのなきら僥倖コホシズヒ小く。ふろく考カウ色ハ大小畏懼オソルべき所爲コトあり。こ
色カクを孝子仁人の所行オコトヒとちいひるさかるべし。然シカレバその、條理スチリ
小疎ウチき儒者の此語コノゴと謬解アヒヤリダゲしたるを却カクて害ガイあることとへかり
たるあり。今俗家シヨクカ小ありく鑿イの巧拙コウセツと知んことハ難カタクこととのや
うあるも。たゞ己オレの内コノ心ココロ小我アノミといふものを微イサカも蘊サレズことある。
鼻負偏頗ヒナキヘンバの念オモヒを去ステ。病の初發シヨホツよりその以前イゼンのことまづも熟
と考カガ。鑿イの述ノブルところを檢査ヒヤアサ。その鑿イの辭コトバ小飾ツヤありく媚コヒを要モトム
薄情ハクシヤウのもの。信實シンシツ小くく治療チリョウと專モウラ小とるものを鑿イ察サツへし。
誠慤マコトの鑿イ師シのいふところち。俗家シヨクカの思惟シウイしたることとち大小

相違サカシとることもあるもの小く。心小合カハぬこと多阿諛オウゴンと旨チこ
容コビを取モトる輩トモダチ。專モウラ此方コノカタの言詞コトバ小從ツキて浮説ウキセツ病按ヤクと。的チキ中ナカたりと
思オモフより。事コトと誤アヒヤリを端ハシと發ヒキあり。且ナド鑿イの巧者カウシヤありと稱モウヤささく。壯
より老トシ小いたるまで數千人スウの重病タイビヤウと裁量サイリヤウたるものありとも
每事コトノト小的テキ中の鑿イ按ヤクあらざるものと。病ヤメヒといふものちいふを
あることより發オコシといふ理リだ小知ぬ俗人シヨクカの冒寒ヒヤカセ停食テイシヨクの輕易カウキ證シヨウ
小もせふ。真マコトの條理スチリの辨ワカべきこと小あらぬを偶小謹論キンロンと聞キ
て却カクて己オレの思慮シヨと背サカと疑ウタガち。愚昧オホカあること小あらばや鑿イ
明察メイサツ懸斷ケンタン事小臨シて過失アマヤチあら人々タタこま小國天下クニの政セイを委任マカスと
もよく治シべき道理ダウリあり。いふ小とあるべ。事コトの理リ小明メイ小仁愛ニヒを

心と一く。勇毅果敢のもの小あらねば。その妙境小到るにけき
バ。世小其人をたれも亦宜あらばや。外表より腔内を察し。病の所
在を知り。薬と與るの難を慮る。常小効驗を見く信用をる。鑿
のいふとある。とり小ふとく微失ありとも。とよより退棄べし
小あらど。俯仰小僥巧。治術小精を研さる。黨より小鑿道小のこ
心を潜く。誠一様素ある者の過る。却く俗家の眼小も見ゆるも
のあり。をべて鑿の巧拙を知得ん小ら。いゝ小も己が腔内小あ
る私見を一掃て。時鑿の矜飾と。甜語遊辭小起惑し無と。始接
たる鑿師ありとも。その巧拙をいゝるの辨のさらんや。昔の
良將も。數萬の英雄の心と一言の下小知得て。こそ小大事を委

て使令こと。己が手足の如あると。おもひ見よ。とさる小比ても。
鑿と業と一く生涯と車足里と。おもふ小量者の心中を察し。知
んこと。何の難こと。のあるべし。然と今の諸侯の病あること。小
鑿と擇こと。其宜と得む。卑賤もの小もまさりく。錯失多。處方的
實とること。少。其故いゝ小とある。勢小乘時鑿の疵點と。華説
の爲小昧さ。阿黨鑿者の雷同合按あると。唯左右近侍の辭小
從其實否とも。糺を採用の故小。偶其非を知鑿師ありといへど
も。其徒の爲小廢棄らと。事情を通べと。由もるく。黙止を以て。
遂小的實の治法と得こと。能む。貴人小篤疾あ。必死ぬること
このやう小なりたる。尤嘆べし。弊習ならどや。假令諸侯ハ尊

このへども、豎伎ち賤といへども、親の死生小係一大事と任ん
から。儲君自豎小應對し。その病按を照管したまふべし。も一親
の病を患る志の深バ。顔之推といひけん人の教のごとくに。
自身小豎を送迎したまふとも。何の辱をとることのある筈を。
よき君父の至重ある命と詫をる豎師ら。大役あることこの都督
をる將軍ふりも。其任重こと小して。其支揮を國家小係當大事
あれバ。ことを輕視を君子の行小あらぬなり。然と儲君ハ其
臣下小妾て顧む。臣下々之を豎官小任豎官ハ之を他の虚名あ
る豎師小詫く。互小自己の後責を逃んことをも。不孝不忠不義
こと小勝ことやある筈き。も一戰場小く君父の敵小圍と。或ら

單騎小く難小逢たまらん小。孝子忠臣の心を以てせバ。身と捨
て赴援せざるある筈のらむ。然と今病といふ巨敵小偏らむと
る君父の艱厄とよとこと小見物し。とを取と思ぬも。こと
禽獸の所行あるべし。が、不忠不孝のもの戦國のとれ小會
あら。我軍といふとも宥へざる小あらむ。まづ其罪を正て他を懲
べと。累世の恩遇をあふく。たゞその俸祿を失んことを
のそ恐るもあ小ごことや。まゝ豎の病家の迎意を專一とく。
人小譽らむ名と鉤んとかもふ輩の。緩急の用小當べき道理あ
るべしとも思はむ。さやうの徒も。危篤證小く駄藥をど與へさ
ふもたえく投む。たゞ辯舌小まのせく人を詐し。藥苦といへむ

方を轉^{カヘ}溢^シとさけバ加減^{ケン}し。辭巧^{ジキウ}のかためこゝし。外見^{ガイケン}を君子^{ユンシ}のやう小見^{コミ}也ととも。其内心^{ソノココロノウチ}の穢^{キナク}ことと。錦^{ニシキ}小糞^{コクソウ}丸^マを畏^{オソ}たるの
ごころ。まゝ鑿^イの術^{ビョウ}小巧^{コウ}ありといへる、ものも青雲^{セイウン}を仰^{オホヒ}權門^{ケンモン}
小媚^{コヒ}と要^{モトム}る心^{ココロ}發^{オコル}とさる。從^シて伎^ギを拙^{シヤク}なるものあり。まゝ茶^{チヤ}の湯^ユ
誹諧^{ハイガイ}連歌^{レンカ}蹴鞠^{クマリ}との他^{ホカ}の百伎^{ヒャクギ}な小、ても、一途^{イツ}小耽樂^{コタンラク}ものも。鑿^イ
伎^ギの疎放^{ソフウ}ことほのあさりあり。況^シく酒色^{シュシキ}小身^{コミ}を溺^{オホラ}し。或^ハハ鑿^イ業^{ダフ}
の旁^{ワタシラ}小貨殖^{コカマシタ}のことと。營^イ賣藥^{バイヤク}などと專^{モウ}小。或^ハ富商^{フシヤウ}大賈^{ダイカウ}を崇^{カホム}
ことその法^{ホフ}小超^{コニル}るものあり。其術^{ソノビョウ}の拙^{シヤク}といふまごもあらば。抑^{ソク}
鑿^イち小伎^{コギ}なりといへども。至^ハ重人^{ジュウジン}命^{メイ}小係^{コヘイ}大任^{ダイニン}小。他^ホの憂^ウ苦^クを
已^{オシ}小分心^{フンシン}と勞^{ロウ}るものあると。たこへ富王^{フウオウ}族^{シュク}小比^ヒものといふと

も。その非禮^{ヒレイ}をゑ小とも思^{オモ}む。奴隸^{ヌレイ}のごとく小其門^{ソノカド}戸^ド小出入^{シュツニュウ}を
るを喜^{ヨロコブ}輩^{ハイ}小。陷危^{ケツキ}の病者^{ヤメイシャ}を委託^{マカセ}ことと。輕忽^{ケイコツ}あること小あらむ
や。また世^ヨの口實^{コトワザ}小も學^{ガク}鑿^イち七^{シチ}のまはらぬといふも。さること
小。鑿^イの伎^ギ倆^{リョウ}も。學問^{ガクモン}講究^{コウキウ}たるのこ小。煉磨^{レンガ}の功^{カウ}をゑさる小
あら祿^{リキ}へ。上^{シヤウ}工^{コウ}小も成^{ナラ}せぬものあることと。米^{コメ}賈^ヤの米^{コメ}を一見^{イツケン}
て其州郡^{ソノシウケン}を辨^シ。兌舖^{ダイポ}の掌^テ中^{チュウ}小も金銀^{キンギン}の真價^{マシバ}を知^シ。帛商^{ヒツシヤウ}の絹^{キヌ}細^{コメ}を
手^テ小握^{トリ}て。其所^{ソノトコロ}産^デを證^イ小差^サことあると。書籍^{シヨク}口訣^{コクケツ}小据^{ヨル}もの小も
あらで。累^タ歳^{セン}の習^カ慣^カ小あるのおおこく。鑿^イもまゝ然^{シカ}あり。書冊^{シヨクサン}上^{ウヘ}小
て理^リを談^{イヒ}實驗^{シケン}を經^ヘたること少^{オホ}ものへ。其誦^{ソノヨミ}たる典籍^{シヨク}ごも害^{ガイ}
とあし。却^{カハツ}事^{コト}を誤^{アヤ}こと多^{オホ}し。况^{マシ}專^{セン}儒^{ニウ}釋^{シツ}の書^{シヨク}を好^{コト}。或^ハ運氣^{ウンキ}五

行ふごとを鑿の原意をとる輩のいづる治術を爲得べきはと近頃鳴蘭の鑿學大小流行し其の風土の我邦小異をも辨むただ其説の奇異を喜織巧ある小昧さきこを愛慕鑿士も唯狄鞆の翻譯せる鑿書と疎小者過ふの虚を吠狗小同く其説いふ小と研窮べき小もあらむ當否いふ小と疑慮も發祢ハ。鳴蘭人の説ことと皆妄言のあきものどと謬執切小之を唱さバ。俗人もはと珍異こと小聽あし。病者を附託蘭藥の倣希小あさしめく。遂小害を冒るもの多し。才高識明者小遇バ。ま採用することもある西洋の學も。今徒小世の害このをありて。益あることの少きを。彼一偏小陥て。向ところを察小せむ。古人の

所謂好まとも其惡を知人の。世小鮮小由バあり。はしく西戎學の大本とさるころ四十一元行の穿鑿その塞ところ多を知む。又無と有とあらむ。有と無とあることなりかといふ説の類ち。甚さ左道小し。大小害あることどもあり。今此らの非を辯析たりこと。固俗家小於く用さるのをあらむ。了解ふこと多けしバ。其預さることと喃も論む。たゝあ小ごとも新奇を好み人情の常あるバ。遠慮をも致し。衆人雷同之を唱和小至ち。尤嘆息ことどもあり。さき小もいふごとく。鑿を言行一致小し。忠實仁愛を其志とさるものかあらねを。大患ハ委のたく。病家ハ鑿を延小敬と致て。吾意必を毫も執む。一切著見あく。籤

方位日の吉凶等の癡こと小拘忌也。誠懇を以て鑿小對小あら
ささば。良鑿小ら遇おさうる也。鑿術の尤修得たさ。晨夕小
思を苦く其過歩おらんことを庶幾ども。猶其域小到えざるを。
况其難を知鑿人もはと世小少あるを。かゝる昇平の世の一大
厄小して。嗟嘆かもふあまり小。他の毀譽小も拘む。今その緊略
と記く自戒。おのら衆人の意得をあまふをありける。

鑿小相對する心得を説

病證を鑿小告る小ら。病の發一端のことより漏落もあく。第一
小ら飲啖の多寡と。寤寐の艱易と。便下の利否と。今まで服する
藥の次第。平素の宿疾とも纖悉小告る。治と乞へさあり。久病小

ありてら。以去のことへ忌失こともあるものなまば。よく回心
嘗く肥前瘡。微毒下疳。瘡。痔。陰癰。臙瘡。或る痛痺。足痺ると患
る。打撲。損傷あどしたるここまでも。巨細小省慮く説べし。たこ
へ隠諱べきことなりとも。病小與たることを秘てら。大小損の
あることなり。是の彼のと鑿士のあさ小も病因を探媒小ある
やう小をべし。前章小も述ごとく。己の私心小病按だてし。そ
を先鑿師小語ハ。不可ことあり。求售鑿師ハ其辭小從て。真の
病因とを探えむ。先病者の意と銘と主とをさば。其説を聽て。己
小諂ふ耳言さるつゆも覺ば。唯其心小投と好ぶ惑亂より。遂小
ハ其係蹄小かゝるあり。こは意得をんハある也あらざること

あり。はと切戻福心の病者も。鑿の伎倆を檢んと。病狀を詳説を
し。鑿者の方より揣度しめ。その論辯を聽んことをするものあり。
こも大なる左過也。鑿の脈を診色を察腹を按て。外表より腔内
の疾苦を知んことをする。鹵菴小くも修得のたき術小く。沈疴小
ありても。百般の證候參査小あらねば。其道小儼利鑿者ありと
も。漏失小いとらいふべらば。然とましく土郎中をや。詳おう
へ小も悉告小あらねば。過あらんことを懼べきと。隠て語さるへ。
愛重かる己の身と玩物小をるのごとく。同大便の泄下といふ
小も。其色相と臭氣小よりて。天地の隔あり。秘結をといふ小も。
蘊熱也。小燥く結をるあり。津液耗く結をるあり。癥疝をといふ

引牽引て結をるあり。不遂小ありたるところ腔裏小ありて結
をるあはば。強小快藥バの至を一槩小投べさ小あらば。小便の
通小も亦爾然と俚鑿をこそを同一小裁量たる輩をさ小し
あらば。最喘氣咳嗽。胸脇牽痛等の膝理昇陽小支障ある及。小便
不利より来。或も婦人小腹小癥塊の患ある者小。唯内部子藏の
水腫たるのとかもはと其治法小く効あるもの、類を偶見
ところなるも。此等の病者ハ必其小便平素小異ことあるも
の小て。患者の心を注ぐ自致小あらざとも。鑿の診候小遺失を
きこと能む。其他小便不利より浮腫をも發せむ。内藏の患を
るものありて。病者もともより鑿師もともと覺をして治術を

誤アヤことあはせバ。俗家レロウトもよく其意得トべきことあり。はレ婦フメナ女
の暗疾シモノヤミを恥ハガく告イハざるもの多オホシも。然シカドハ母氏ハハの夫ウツト主ミまレる女メシノカヒ奴
かどより陰ヒンカ小イ鑿ツタフ小ツタフ傳語ツタフやう小イをベきことあり。こレも自告ミカクの
優ユウ小イの志シらレばと知シルへシ。其ソノ他ホカ小イ兒コの病ヤミを乳媪ウチノメ小イ委マカるも大オホ小イ不
可カニマこと小イ過アヤを致イダ基本モトなり。乳哺ウチノメ前後ダイセウ後ノチ洩セウのコトまレぐも。其母ハハ自
檢ケンて鑿イ小イ語ハナシべシ。最トモ小イ兒コの鑿イとク啼ナクものも。腹診ハラミナシも精ツツ小イ為ナシの
たレきものあレば。其患狀ヤウザイを巨イ細サ小イ談モカクく治ダと乞コフ小イあレねバ大オホ小
損ソンのあること也。たレこへ良鑿ヨキイかりトも。衆病者オホクシヤウジンを一身ヒトリ小イ擔負ヒキウケて
四シ方カケスル小イ奔走イトヒ小イ間マをケたレば。蒼卒ソウソクの應對オウタイ小イ見聞ミキ小イ遺モリことあり
とレいふべシらレば。故ユエ小イよく記得キコトく説話モンガタルこと緊要カンヨウあり。孝悌コウテイ仁ニ

愛アヒムの志シ深コソクらん人ヒトも尤トモ意イを注ツクべシことあるはレ藥味ヤクミの口カ小イ適タシ
ぬを妄マヤカ小イ鑿イ小イ訴ウツるも慶劑ケイジの掣肘セツジュとあることあり。良藥リョウヤク口カ小イ苦ク
けレこレども。病ヤミ小イ利リありといふレもあレらレばや。去クるあレせレども。其
強シヒく服モツ毎ゴト小イ胸膈ムネ小イ拒カく吐逆ムカセウを促モヨミ。或シテ服後クモルアトもレなく平穩オダヤ
あレらレば。藥汁クスリノ泥滯ヌマユレものも。こレも作用力アチンシキカキの容受ウケざるコトあるもの
かレまレる。そレを強ムク小イ服イせんトをレるも可ヨシらレぬことレも。却カクて害ガイ
を得クことあレば。其由ソノヨシを速オウソウ小イ鑿イ小イ告ツゲく。藥ヤクを更マシむべシ。とレい
へシ。當タシの藥ヤクを。瞑眩メイケンして捷効スイヤクを見ミことあレば。一槩イツ小イ論ロンむべシ
ことレもあレらレばと知シルべシ。又惣スズくレの藥ヤクを空スキ心ハラ小イ嘔ムを可ヨシことレも食
後ゴ直ジツ小イ服マンの佳ヨシらレば。はレ下焦ゲブの病ヤミも食前シヨクゼン上焦カミの病ヤミも食シヨク

後と良とをといふるも。大愚こと小く。藥の何なる理小く効
あるといふこと。た小辨知ぬもの。いふこと。なせば。必拘執こ
ころ小あらばと慮べし。

病の傳染を理を説

大凡一切の病轉化ざるものあり。其轉化べき理を明小知さ
へ。之を避べきこと。治まべき道をも得こと。さし。志の
あまごも。其深義小い。とりて。い。やう小説示さ。俗家の容
易會得まべきこと。ならぬ。今唯其大要を記。衆人小告る
もの。あらし。先第一小了解ま。人身も天地間の萬物の理を
具。遺ところ。なまもの。あま。世間無量の病も。悉皆内と外と

相應ト。發。故小傷寒時疫癘痘麻癩毒肥前瘡。かよび脚痺。
黄疽癘瘵癩疾。かといふ病の。あるとあら。るもの。ま。傳染
さるも。一切かまもの。と知べし。其中費小。知易と隱小
て察し。たさ。あり。正小。と。辨。たく。認。さ。もの。も
有。今。其。顯著。もの。を。知。得。他。自。了解。今。此。小。一人の
傷寒を患もの。あら。其。初。外。界。より。轉。輸。た。る。小。も。あ。ら。む。内
界。より。釀。成。た。る。熱。病。の。類。小。も。あ。ら。ば。偶。寒。冷。小。觸。こ。と。あ。り。
肌。層。昇。陽。を。胃。塞。て。滕。理。發。泄。あ。く。あ。る。の。故。小。こ。さ。小。對。抗。べ
き。惡。寒。發。熱。を。促。之。を。汗。より。解。得。ま。其。患。漸。小。内。藏。小。及
し。經。脈。腸。胃。の。運。輸。平。素。と。大。小。異。の。故。小。此。小。於。一。種。の。毒。を

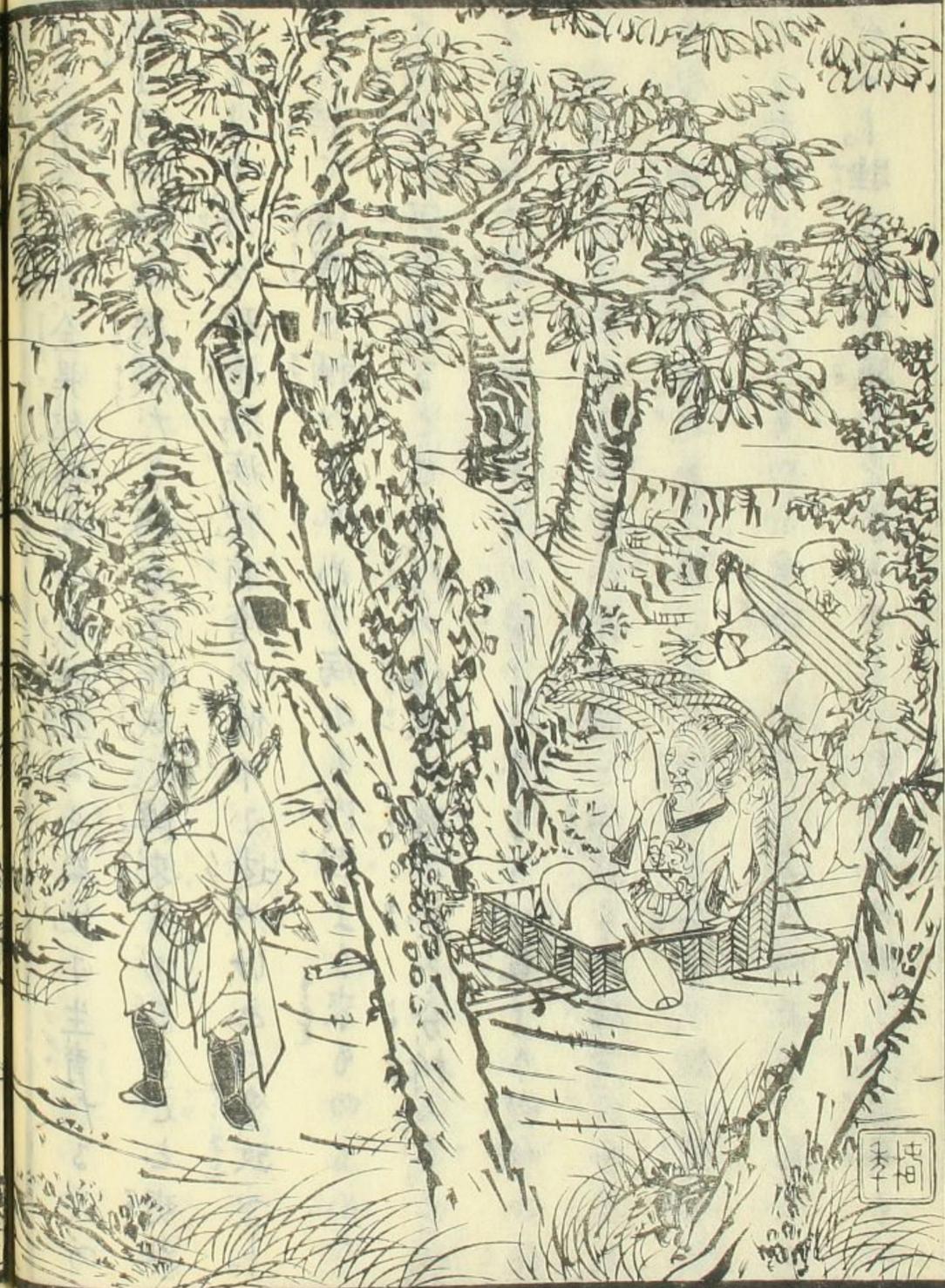
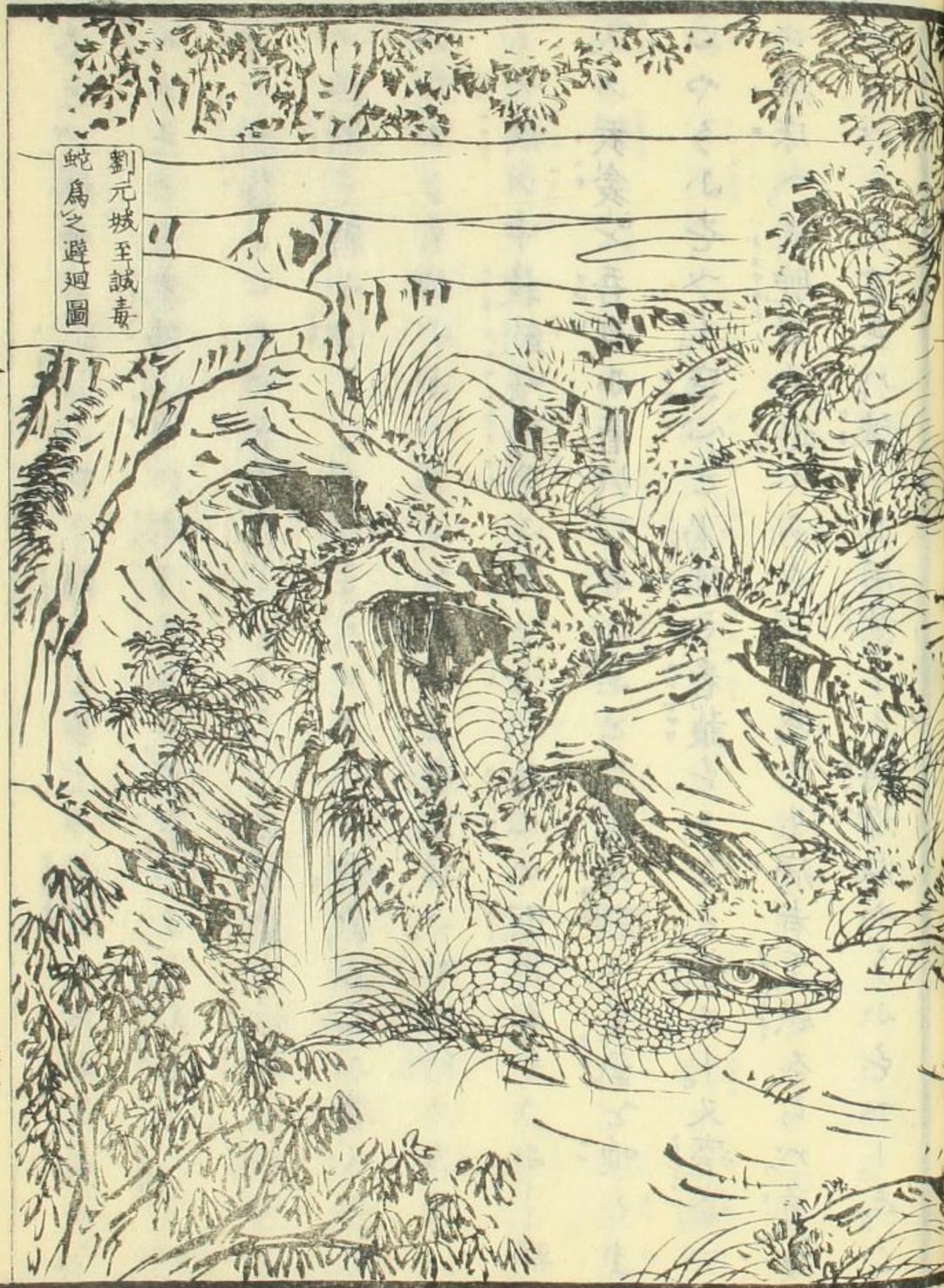
醸造カモシナスをきより之を人小傳化ツタフルとさる。初小寒ハタヘ小觸カシて皮表ハタヘより病
を得エたる人とも。其發病ヤミヤウコト異小一ナヤミハダシクく惱苦劇ワレヒバクツタヒ其患速傳變ウチチ内藏小
及オホホむ。こ、小至イタシバ其毒ドクを傳輸ウツレたる人の病と其證相似シヨウアヒニたり。偶異
ものあるも。其人の性質ウツレツキの各別ベクなる小よきハあり。そきより一
て其毒ドクを人より人小轉化ツタヘて患ヤムあり。然シカレども初發小病シヨホツを得エ一人
ち。たゞ一時皮表チヨウトハダヘを壅塞トキセサレたるより來小過キタざる。或アヒ陰濕ニツケの地
壁カベのいまだ乾ぬカレところ小卧フシたるると一時イサカの妨害サハリ小由ヨル。病因
各異サマクをきども。何ナニも蒼卒サイソクの事コトあると鬱熱ウツネツ日を累ツミて。一種シユの
傳化ツタヘべき病毒ドクを醸成カモシナス故ユあり。この痘麻ハシカヒゼン肥前癩疾カラガサの類ルイの異域
より轉輸ウツルものもはと此コレ小同コトく。其病の本源キト天地開闢カイヒクの太古ムカシ

より有コト小も非ヒ。全異邦蠻夷センイホウマンイの氣候キコウ正タシらぬ地小生育ソダヤたる人の
體カラダより。一種シユの惡戾アクモトリたる病毒ドクを結成ケツセイて。傳來ツタヘものあること明アキラカか
ること。次ツギの痘瘡癩疾ハシカサカシ肥前瘡ヒゼンサの條ジョウ下小述ノテべけき。參攷サンカクべし。
はと槩スベて傷寒シヤウカンと稱ヨブべき熱ネツある病ヤミも。内因ウチインより來キタりものもあり
て。所由ソヨウ小區別シヤクベツあるところ。後の傷寒シヤウカンの條ジョウ於オキ分拆フンサイべし。をべ
くをこれらの毒ドクを轉輸ウツレする。肌膚ハダエよりくる。口鼻カハナより吸呼イキ小從ツレ
て致オチもの小く。熱ネツある病者ヤミヤの側小睡ソムリを催モソシ。或アヒ枵腹ウラハラ薄衣ウスギを忍ニヒ。又
疾ヤミ小由ヨリ體小蝕フツク乏ツツあるるとの人能ヨク之小當アタあり。故小轉化ウツリや
をき熱病ネツヒヤクと思オモふ。ものを着護カンガクせん小も。其用心ココロエあるべきこと
ぞ。一ヒト。睡スミて風カゼを感ヒキやをきごとく。卧フシたると死小傳染易ウツリヤスキもの

劉元城至誠毒
蛇為之避迴圖

卷一

七



李

あはべ。病者の近旁カタヘ小在ナリく寝ネことあども最宜トシヨクのらぬことあり。
然シカバあはども孝悌ロウテイ仁愛ニヤケの志深コシロフサキものも。其身内ミミウチより發出ハライダシく。上下カミタノ四方ヨコモノを衛護イモヘところの氣ありく。いゝある惡毒氣アクキ小近觸チカヒと雖決イハヒケツて排除ハハヒクシキく體イ小染ソメことあきものあり。此衛氣コノキを妄小庸人ヒトの眼メ小みちるもの小あらげ。之を知ヒこと甚難シタカシ。故小此修行コノシユギウのあき人ヒトも。首病コノビの中ナカ最飲啖トシタベモノ起卧オキフレ小意ココロを注ツケく。身心カラダの困憊ツカシぬやう小。病人ヒトの衣衾キルギと吾身ワガミ小着ツケげ。口鼻クハナの息イキと二便ニベン身體カラダの臭氣ニホヒを嗅ニホこまぬやう小をべ。空心スエハラと渴睡カムリヨクエく看護カンゴをること甚あ。又瘡癩クラシヤミの病床トコロへ。虚脆者ハタヨウキモノも近チカヒべのらげ。さはとも病者オヤキヤノヒト至戚チキあらば。首護コノゴる少オウべのらざは。豫カサて其用意ソノイく轉染カウラぬやう小をべ。あ

も炎熱アツサの頃コロあど。其疾ソノヤミ小く斃シたる人の冢塋ハカシヨへ上ノボべ。屍氣シキ小觸ソフぬやう小戒マコトべ。又痘麻ハナカハシを避ヨクことあ至イタツく難カタキものあることあ。後ノチの卷マキ小言イヒ及オモべ。肥前瘡ヒゼンガサ。徽毒ヨケヤスキの避易イコロも。其條下イ於オく詳ツギ小説論トキレメを讀ヨミて辨ワキべ。ことあ其轉染カウラを御オモべ。梗畧アラハレを談カタルあり。まは忠孝慈チウコウジ仁ニの志篤コシロフサキ。身ミと抛ステく看護カンゴを人ヒトの熱毒等チツドクナド小傳染カウラさるる。昔ムカシより和漢ワカンとも其證タシメ少オウのらげ。今イマの世ヨも多見オホクるところあり。然シカバと人情ニヤクの淺ウサヤやのらる。己オノが懿親シニル戚屬シヤありとも。傷寒熱病シヤウカンの類ルイを患ヤムとさる。傳染カウラことを懼オソて。看護カンゴを他人タ小託マカセて。病床ヒト小近チカヒことをせざるものあり。是人倫コレニの所行オコナヒ小あらむ。殊トトリ父母フボの病ヤミ小命イノチ小も代カべさ小。傳染カウラを懼オソるハか小ごとと。さはとも吾兒ワガコの病時ヤミトキ小ハ

通霄寢もやらむ者侍鍼と死小も己身を刺るごとく。灸をるこ
さも吾體を炳ぶごとく思ふ。己を生たる子故あらばや。然へ
己を生たる父母の病を疎放小をることあるべらば。兄弟
ごとくも吾親よりとて同子あり。吾親族を曩祖よりとて同
孫子あり。然と路視さし。或る身小閑さし。彼も者病小慣さり
あといひく。人を雇て侍たぐひ。豈憎べること小あらばや。懿親
ともかく待ば。奴婢の病もいふ小苦惱のも知む。醫師小藥を乞
たるむあり小く。服う不服うも問む重るべし。延日と聽と即落
籍を主臣の情も恩もあさ行。天譴豈畏べること小あらばや。此
論も且閣さて。彼病毒も其本因各異小く。一と一とく同ものも

あることあり。故小痘毒を輸て麻疹小もあらば。肥前瘡小癩毒
小も變ぜば。瘡疥併病もの。瘡へ截ても痢もとのまゝ小く
治せむ。焮腫眼を傳ふハ必焮腫眼を患。一切皆然もの小く。病百
種あるハ毒も百種。千萬種あるハ毒もまゝ。千萬種小く同の
らさること。草木の種子の各異のごとく。草木の種子も土地を
得て蕃茂。病の種子も人の體小植く發生こと。其理相同。志の
みあらば。凡一切萬物各種各異小く。天地の間小一と一とく同
ものあるの理を推べ。尤明め易ことあらばや。然と萬病一毒と
いふ説を唱たる醫師あり。より爾來。其言の弊小よりて。妄意
小人を誤徒今の世小多けむ。俗家小も審辨あるべきことなる

り。又人身の衆理を具す。萬事小應むることを明小せば。内外と
とくく患く遺ところを病む。一生の間小一患く。再感もの小
あらぬこと。自知るべきなり。其尤顯著して知易ものハ豆瘡麻
疹の類あり。微毒のごとをも根治さるの後ハ。いゝある癩毒あ
る男女小會と雖。決して傳染もの小あらむ。俗小のさをかきぬ
きたるといふをこまかり。其再患ものあるも。根治さるか故を
正。傷寒などの初惡寒發熱より。腹滿直視舌胎黃黑。譫語等小を
正く治り得たるの後も。必再患ことをあるものあり。たとへ類
似たる證ありとも。曩小病とさすと比較せば。病因異の故小。證候
決して同らむ。こまらの事小至るも。微細小意を注ぎよ。其

看病人の意得とよく

理を明おたく信し難けよ。其急勢あらぬことと悉も語せ。世
人深理を解し得ばとも。唯一切の病を傳化べさるものと記得
く後も。之を避べきことを慮べきことあり。
看病といふこと。槩小病者の飲啖坐卧の介抱と。藥を服しむ
ることのこまといふ小あらむ。是小三等あり。先其第一といふ
る。病の萌を塞こと也。とよ何といふ小。凡人何小も至慮て
抑鬱經久けよ。血脉の運輸艱澁の故小。顔色青黯昏冒敗意其
知見悉依違精神蘊結小從く元陽の循環怠慢ありゆき。軀殼平
素小比ハヤ、冷ことを知この悒鬱起原と爲ものも。悲傷恐怖

愛著戀慕の思念發動く歇おたさ小由ハあり。旁觀者速其情を
察知バ。いゝ小も意を致辭を軟く慰諭その蘊結の排遣やう小
まべきことあり。もし然むして鬱悒日久夜眠を妨小至也ハ心
識漸小減耗昏闇運輸消化の機を失逐次小腹裏小癥塊を結成
る。或ち勞瘵のやうある病發る。又ち癩疾とも爲狂氣をも發し
百態の病小變成く遂小ち危険小至ものあり。如此類を必其初
を輕視べさ小あらば。兎角小喜も怒も。と也の爲小毎夜睡眠を
妨ことありといえ。必後小害あるものを用意く。疾回心をべ
さことあり。又何の故もなく。憂悲恐怖沈思望慮或ち暴怒虧心
の素小異たる状からバ。癩證狂亂の漸あり。又瞋恨ること久け

也バ。氣逆故小周身懸引く頭中熱一面色赤。又ち筋惕肉瞤を
もあり。怒氣を神氣を壓迫ものか也ハ。甚さ小死ち卒厥て僵る
ことあり。故小洗沐小熱中やましく。世小いふかん去やくもち
といふ類も。癩疾瘰癧病狂氣勞瘵をど小あり易く。或ち素小眩運
頭痛をどを患。又ち年老く卒疰をど小もありやましく。又逸樂の
度小過酒色小耽或ち晝寢く通宵睡む。或ち讀書伎藝の爲小精
神を勞こと。その人の量小過とるを。皆制むんハあるべら
ば。志のハあ也とも學問伎藝の爲小意識を勞動こと。憂愁酒
色の爲小身體を損害などの害をささものをささバ。強く禁戒小
もかよむべ。こと其入小從く簡裁あるをさことあり。ことら

皆疾の漸シざる小防シべきといふあり。其第二といふも。既シ小病シあるものも。其病の由ヨリ來キところを考速カク小高手シの醫師シ小診察シを乞クをさあり。病シ初シの處置シ適シけきば。十シ七シ八シを劇シ甚シ小至シどく治シるものあり。其梗槩シをいシ。微毒シの初下シ疳瘡シより患シもの。肥前瘡シの先指掌シ小五六顆シ發シて。外シ小癢シところをさシもの。傷寒シの表證シ小發汗シ法シのごとくシ愈シもの。吐血シ下血シの速止シべしもの。將狂シまへシた小夜寢シぬるものを。施治シく睡シめく可シもの。昏睡病シの逆小覺シべきもの。卒疝シの漸シ自己小悟シく其御シを爲シべきもの。婦人崩漏シの藥シ小効シを術シ小託シく治シべきもの。痢病シの初發シ溏瀉シの期小汗シく速効シあるもの。己小裏急シ後重シ劇シを

至シたるも。駛下シく宜シもの。霍亂シの吐下シをさへ。逆小吐下シくむべきもの。また吐瀉シ甚シ早小止シ杯シをらぬもの。大小便シの不利シより病シを發シることある小意シを注シべきもの。妊娠産後シの諸患シの藥の効シを託シ。手術シからず治シせぬもの。金刃傷シの血シを迅疾シ小止べきもの。打撲シの瘀血シを急卒シ小瀉シ去シべきもの。閃挫シたる骨節シ。腫出シさる先小快捷シ其治シを爲シべきもの。痢狗咬傷シ其他一切シの走獸シ惡蟲シ小吠螫シたるも。即時シ小其毒シを去シ。後の害シを決シくふれもの。小兒の吐乳シの輕忽シをらぬもの。魃蟲シの腔裏シ小生シトたる候シあるも。大人小兒シ小拘シむ。疾其蟲シを下シさす。蕃息患害シを爲シもの。母者シ乳媪シの病シを乳シより轉輸シて。兒の患シを發シるも。其兒シよ

早母及乳媪の疾苦を治べさるもの。如此類多方あるを。其初
起小意を致て。治術肯綮小中さる。速小害を遁ることある。此
小縷舉のたし。も一かゝる病の大患小至を過小治をさる。さ
て醫の奇勲を慮ねども。この酌用を醫者の大小巧拙あること
小く。俗家の尤知たさることある。誠實の志深伎術小意を
用ること。この無漏醫士小直之を諸を必其過失はなれものあり。
迎意取容ある醫人。此間小く隱効を收ことを欲さるもの。この
自己も意向さる。其機を失暗小後の害を醸こと多けさる。も
この文縷華説。木小竹を接たる醫按を壹信用し。體を損らる
ること。を知らざる。嘆息こと。の極あらばや。第三等の病勢既小

進む。氣力衰耗。飲啖も減。坐臥小人の技を頼もの。藥の力を
待べさること。固然ある。看侍者の用意の可と否と小く懸小
隔のあることあり。醫者三分看病七分と諺小く言習ども。看護
をよく領知たる人。少小く。無小く如さるもの多。故如何とあ
る。食事小く與べさる時あり。藥小く用べさる度あり。頻藥を服
し。め強く食を與る。病者の腹力を小耐た。藥も食も泥
滞り。下降たさる。故小。皆適害とある。効あることある
さる。藥も味の偏たるもの小く。平素無病の人といへど
も。腹力弛弱もの多。服く。食事ま。進難くあるものあるを。
今病苦あり。腸胃の運轉も常小異。偏味の藥其度を過てら。

妨あること能は。故小薬と食事と混一ならぬやう。水飲も心
く嚙しめ。其腹裏小空隙ありと知は。小薬を服しむる。薬氣
を周身小轉輸く効を奏ものあるは。腹中小餘裕あることあるら
ば。腸胃より遍體へ普達力を有る故小絶く効あるもの小あら
ば。又惣て食事を病人の分量より少殺たることよし。病人ら
もと生熟藏の機動違常く。飲啖味を失ものあるは。それを強
與て程度を過さば。めの利する曰小穀を多容く。屑せんことを
のごとく。停滞く害とあること必なり。況薬を服しめく間ある
小食を與湯水を喫了や否や湯液を用んとをること。假令平和
壯健の漢ありとも。いゝる之小耐ん。况病者の精力虚耗たる

ものをや。然を薬とたしいへ。多服く宜ものと思動ハ別煎煎
用の丸散其員晝夜數十貼小も及もの有ハ何ごととや。いゝる
る方劑小くも五七貼を限とせべし。沈痾胃弱もの小ハ三四貼
を過べららむ。とせむら用捨をべきものあると。彼鬻薬士即中
を唯貼數を増んかため小薬を多投病家を強て速愈んと欲
更小貪喫しむ。故小初ら食氣も不有ものも。腸胃小偏味の
薬を多容受て。とせ小對抗力の堪ざる故小喫べきものをも
漸小嫌やう小あり也と。絶く食事を進ば。萎頓より加減を
べしといひく。所措をみよ。葭菖芋の尤泥滯易き品を饒多配
合たると。又更小喫しむと。腸胃の轉化遲慢あり。宿飲粘痰胸

腹小充滿一機關頑鈍あるの故小皮肉を漸小羸瘦元氣益虚疲
也さく遂小不治の病とあるは鑿者厚顔小初よりかく
あるをいと慮ぬまば專滋補の劑を投し小治ぬる天命ありと
いひ病家も韓漫諸品の高價をも蓄む多服力と盡する功を
さく死ぬべき定命あらんをといひく遂小其初の處置の失錯
たることさらく悟ものあるは何小も定まる天數小由こと
小あるべけきともさ一あり患人の爲小はまら哀憐ある
こ小慮る也俗人のともかくも鑿を業とせるものか此用意
もあく徒小病者を苦惱しむるをふごととぞや其心貪婪小あ
ら小蒙昧ありか、る鑿の藥を用んより藥せむく中鑿と

得小若トこは讓法秘符の驗ありと執も是故あり又其次小
識得べきを季候の寒暄をも別む炎燠の時小も裊隔屏風閉つ
ら小蓐と重衾を厚一病者暑熱小困苦て汗多洩とみる汗多も
のを風小中ことと禁と鑿者の説つまばいさま小も風小觸
もありのをかんて廁へ登る病人とも強く蓐上小く虎子を用
く便せしめ飲食も湯藥も温熱物をあはるく進く内外より熱
をとふまば衰弱たる病人いさぐは是小堪忍べき今無病ある
ものごとく試小數日のる状態を爲めてみるべしいさある
健夫ありとも病苦の發ぬことやあるべきいと愚昧なる所爲
あらばや然バ世間の大病も十の七八も皆鑿者と病家の用意

あしくて。不治の證シヨク小志たつるあり。凡常オヨソコト小忍らる、ことも病ヤミ
ありて堪タムふささものあまハ。其氣候クワウ小應ト。病人の體カラダ小適オウや
う小しく。其側ソノソバ小在着病人も爽快コノロヨキやぞの患者ビヤウニン小も可ヨキものあり。
病人あまハこそ。頻温暖ヒタモノアタメて良ものと思オモハ。愚昧オロセあることあり。と
かく小其平素ソノツチ小背たるも必害カナラシキガイあり。貴賤貧富クワトホマイヤシキモ其分ソノホド小從ヨリく。病者
の處置チアテも異ワルとも。唯其身タツソノミ小習慣ナレキタルま、あるを佳ヨシこそ。近屬チカキコロ或僻邑カタクナカ
小て。丐コビキ嫗ウサヲの痘兒ホシサヲの灌膿ホンナミの肯コロあるを負ツレく。村里サト小食シヨクを乞コヒふと。
一富豪トメルイヘンシヨク之と視ミて。憐愍アハレあること小思オモヒ。竈厦ガイドコロの旁カタラ小子舎ベツヤのあり
小入オキしめく。飯イメあま與アタヘ暨イを招マシキく。藥クスリを服クマしめ。痘ハヤシの收カセルまで。此小
居オキくをらせんこそ。懇切イトチシヨクあるを。丐カタナカ嫗ウサヲも嬉ヨロヒてありし。其夜ナ中チ小

さしも盛ミコト小膿クミたる痘ハヤシ忽ニハ小没カレテて。苦悶クシメタメ小驚オドロキ躁サハシ暨イを乞マシキて診ミせしむ
まハ。此コノ醫イ師シヤや、僥コト利トクするもの小やありけん。是コレも全寒マンタクサムキカヒ風霜シキユキ雪
をも避イドクむ慣ナきさしりしもの。卒ニハカ小室イヘンツチ中チ小鬱閉コモリするは故ユエ小。如カバ
茲ル變證ヘンシヨクも發イデたるからん。試シクシ小露地ロダへ出イかさくさるべしといひ
て。夜中ヤチウ小戸外ソトへ藁ワラ莖ガモを延ヒキく。乞子コヒキの母子オヤコを出イ居オキさく詰ヨク且ケて
みまハ。豆マメ瘡サウ再快サキヨク發ハツし。膿クミも十分ソコク小灌ソクく。とまより微オホの惱オヤミもあく
收カセ靨セたりと聞キケり。是其常コレソノツチ小背ソムキて初ハジメの變證ヘンシヨクも發イデするあまハ。これ
らのこと小ても病ヤミあまハこそ。蒼卒ニハカ小其素習ソノツチ小異カガたるを宜ヨシら
ぬ理ワケをも推知オモヒアスべし。又マタ富貴フクキの家イヘ小ても同オナシ理コト小く。春冬ハルフユあまどの凄シラ
寒サシセツあまハこそ。病者ヤミヤの居室イヘの氣キの鬱閉コモリするを宜ヨシらぬハ。をり

とりも室隅の裱隔を半開て。濁氣を洩清氣を納やうふくふ
し。況春の季の暄ある。又も夏秋の暑小。風の徹ぬ處小病者を卧
しめても。いゝるが害のあゝるべき。日脚のふくさゝいるこ
ころあど尤佳ららば。蚊帳あどを垂るも好ららむ。炎熱の時風
あさ日あどら。室裏小扇を揮く病者の枕邊をあふきて。病者
爽快といえり。不妨ことあり。又四時とも小。隔室多も。患者の寢
所をとりく移たるる。良とをいゝふといえり。人の天地の
氣を吸呼く生養こと。な魚の水中小在がごとく。死ものふく。
吸氣も自然小體を榮育べき生氣を含有く腹中小入呼氣も其
塗濁を吐出し。氣息小從く生活運爲あり。其動く音あるものを

風といひ。静小く聲あさものを氣とよふこと。猶水と波との
ごとくふく。一切萬物の體を成用を爲もの。悉皆此氣の榮養
小由ざるものあり。但し呼氣ハ生活小用あさ塗濁を止べ。無病
者の吐出ものと雖再吸小善ららば。況病者の氣血の運輸其常
小失。腸胃小穢液充滿く。呼吸の臭氣嗅小忍ば。然を其汚氣を室
裏小充塞しめく。病者其間小吸呼をるときも。病毒増進也。さて
治すべき期を失のる。輕ハ重重ハ必死小到んこと。又目前を
ること小あらば。假令ハ口より吐出たる腐穢物を再喫ひ
盆魚の水を數十日も更さる類小さも似たり。能此道理を發明
く。居室を移とのあらぬところ小ら。とりく病者の牀蓐を易て。

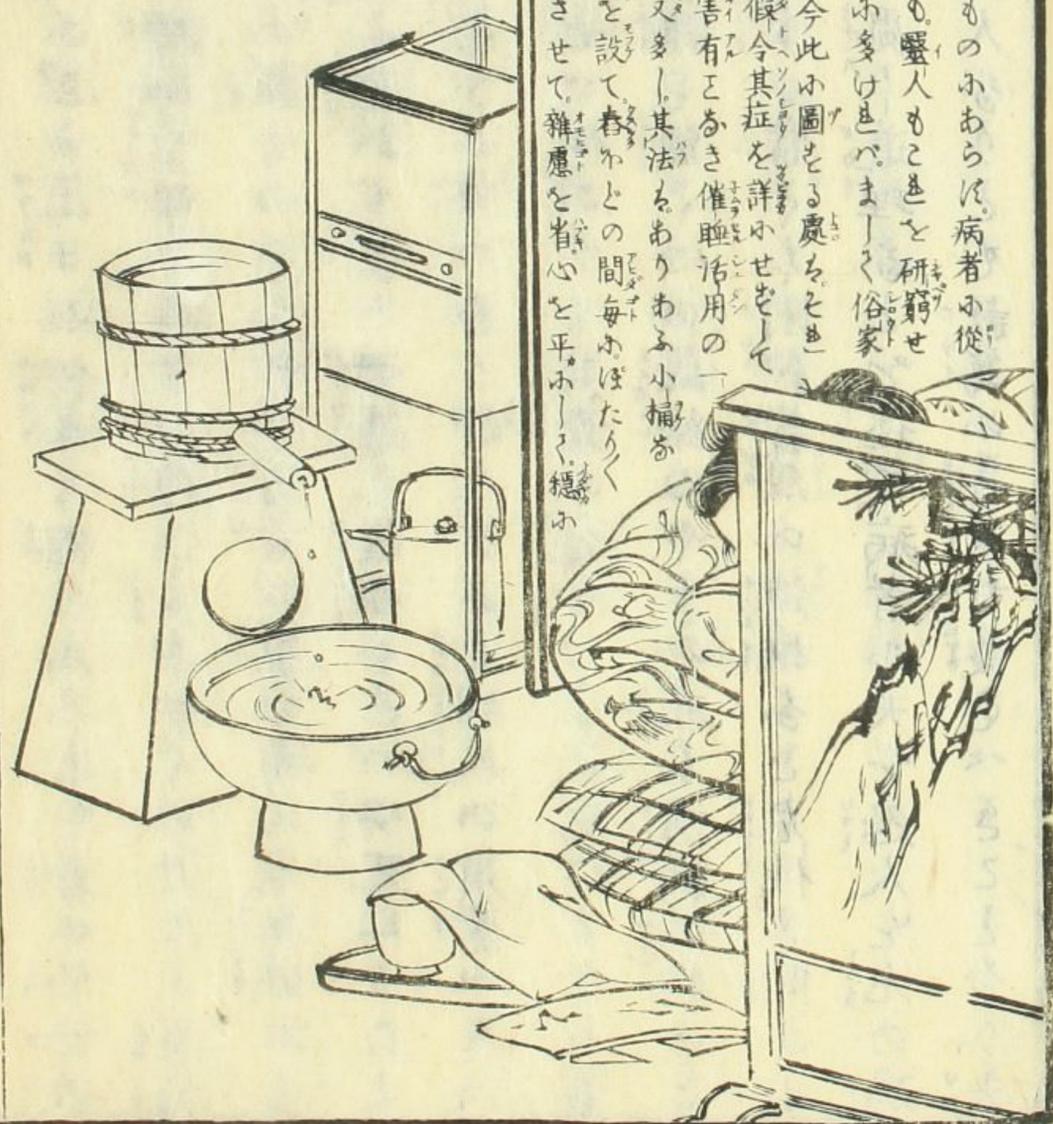
臥たる傍の裯フスマを放開アケ清ス掃除サゲして。さく後ノチ小故コトのごとく小
移シべし。諸病シヨロヤクとも小此意用コノコトと忌ヌルべらば。燭火アカリと火爐ヒバチを多室オホク内
小安オクべららむ。惣スベて火氣クキの過カチること。病者ヤメの為タメ小可コトららば。甚
害ガイあることあり。熱アツある病者ヤメら昔昔フリク嚴醋キツク一ヒト合カヒを瓷焗シヤク小容イレて。
慢火ウツカヒ上ノ小沸ワカレ。その氣キの室中シヤウヂウ小充ミルやう小一ヒトくよ。醋スを能ヨク滯氣コヒキを
排除ハジメものあり。又病者ヤメの衣衾キルギらとりく新鮮エラカシものを更ナめくよ
一ヒト垢汚ヨゴレたる衣服キルモノ臭氣ニホヒのあるものも禁イムこと也。屏風ビヤウブをどまぐも
換カへたまさく可コト。看侍者カンシヤリも。瘡氣ヂキモノ或シ熱アツあるもの。體臭カラダクサ狐腋ウキガの類ルビ。
及婦人ツメヤクノトキモシク月信時ツキマクノトキモシク若ヤカ々ヤカ晚オソ後ノチ未マデ浴者ユカヒモノ。或シ死者シニシを處置トリアカヒたるま。浴ユカヒせば
衣服イフクをも更ナぬもの、類ルビを制セイさべし。垢穢ヨゴレチ異臭アヘキサヒある衣服キルモノを着キて。

看護カンカクするがごも。ま可コトららむ。惣スベて病者ヤメら。寢室シメヂと衣衾キルギと。飲食オシエ
の消息オシエ及看侍者カンシヤリの用意ヨウイ小隨ユイく。病の進退ハヤヒ小大オホ小關係ケガレあること
をさハ。決クツ一ヒトく忽トウ諸小シヨをべさること小あらば。然シカと此患コノヤメ貧賤ヒンケン者モノ小
のオホ多オホく。富貴フクキの家イヘ小少オホことオモの思オモハ。さ小あらむ。富貴フクキの家
の臣妾メニツカヒら。他の毀譽ヒハルを懼身オソレの後患コノヤメを厭イトヒく。假令カトヘ知非コノヒツキことありて
も。誰タレ發言イヒイダスものもあく。人まへ小の珍敬オホシヤクを傳語イヒフシて。炎燠アツサ小も
裯フスマ屏風ビヤウブ風フエたぐつら。衣衾キルギいやがうへ小被キセまおらせ。絶タテて更衣カヘ
の議サタ小及オホび。唯ナニゴトモ一切コトモ諺コトバ小謂イフららむ。さハらむの看侍カンシヤリを。當務オウボあり
と裁量サイリヤウて。藥ヤクの煎ナニシを羹婢オウギ小妾マカヒ患狀ヤメ牒オウチを飲啖インタン前後ノチ搜ソウの記キ子シをこの
上ノ每車オノオモカモ面從オモカモのイヒマヤカ小異辭オホカミダヒ。護オホカミダヒ己オノをオウリして。たゞ速更ハヤカ直ナく暇逸オホカミダヒ

凡眠ふの先その心を臥しめて後小眼を臥しめよと古人の
 教し眠の未出ぬ前小先その思想を断て心意を定し精
 神を收て後小眠小つく時小凶夢なく臥時穏あり睡眠
 小由く精神再カを得故小寤後身體爽快小あり病も自
 然と發ぬやう小なるといふ也然小癩瘵氣癖あるもの
 及喜怒哀樂の情妄動易ものも將小睡んとせよバ雜
 慮妄念まづ心頭小現起て精神の煩を爲か故小
 眠も疲倦て睡んとせよとも心を睡工能
 きたまく瞑目とバ幻夢を見睡中少も安
 となし毎夜如此なせば心身漸小萎頓て
 經脈の運動怠慢く遂小不治の癩癖を
 醸成と有小も至るありの氣癖
 ある人の長病小か、至
 險症や、愈て後只身體
 の素小復し難時小當く
 睡との安うらさる類をい
 つも多あると小て若とせ
 らとをのま、小棄置とき小の
 再沈痾の基とあるとありとせよバとく今世小
 補養とこりの麻痺劑をとら其症をも詳小



せせりて安小用べきもの小あらは病者小從
 て酌用の有とせよとも醫人もこを研窮せ
 せりて人を誤もの世小多けよバましく俗家
 の辯知べきと小非也今此小圖をる處をこ
 らの類から異小して假令其症を詳小せざりて
 安小用たり共決りて害有とせよ催睡活用の
 法より予の歴驗も又多し其法をありあふ小補
 と小の望小簷滴の様を設て春などの間毎小ほたりく
 と照る音を病者小敷させて雜慮を省心を平小く穏小
 睡小着しむ
 術あり尤旁の
 人小も制て靜謐を
 ら使るの或も寂寞
 ところの室小在て
 施行小あらさ色バ
 其効少し故小世人
 よくその意を得て
 後小こを病者小
 試べし



せんと思ふ故也。上日小何事も無らんことを希の外他故
あり。今の世の縉紳貴族の病者の接ひ多むかくのごとく。富商
大賈もまさ此小類ものあり。故小富貴の家の病人も卑賤小も
劣る。いつも軽も重もさへ漸進。險證をば必死ぬること
と思ふ。此弊習ある小由ありけり。まさ者病人の用意べきハ。
も一病者氣鬱せば。何小ても其意小適語をしく。病のことるを
るべきたけ發語を強る心の蘊結ぬやう小。或も演劇遊興のこ
と。世間の打諱事小當るも剛毅義烈の談柄と尤佳。其間小る。
聖賢の困厄小處一道理と述べて。病者小天を怨人を尤の惑
あらしめ。他人ありとも款罵小善愛者護をべきことあり。夫

人の腔子も病の器をば。自己もいつく何ある疾苦を得る。
人の抱撫うけんこと預慮がたし。因る懿親とさら小もいとば。
朋友同僚ありとも。平生の交誼と重し。病あるとさ小るをるべ
きたけ小意を致す。己小厮役ありとも。病とさ小る分憂て。毫
輕視小せむ。汚穢をも厭むる。こは小勝する陰陽やあるべき。釋
氏の着病も八福田之第一也と説するも。その慈心の直小天地
生成の道小合は。福報を得べき理あはばあり。殊病者も晝夜小
從。或も寒熱往來もあはば。毎時病者小問。肌膚を按手脚を搜寒
温を知寤寐を察。衣衾の厚薄を審。口舌の乾燥を候。湯水も適中
小與。痛痒のある處も摩も捫も癢もしく。意小應やう小をべし

又長病人も。手足の重なるも垂たるも勝なくおこさば。とせらま
でも意を加。炎燠も鬱蒸せぬやう小。寒夜も風の侵ぬやう小。
紙格襖隔の開闔までも。さら小疎脱もあるべらば。最意を注
べさる。飲食の分量と二便の通閉あり。一。小。喫たる物と便下
この多寡を校量。二。小。長病小至く小便の通利少る。尤可あら
ぬことと知得。三。小。い。小食氣なくとも。數日大便の閉る。腹
氣の不下降故あることと思。四。小。大便の色相臭氣の區別。五。小
る。小便の晝夜の多少色濁といふ中小も。黄あるあり赤あり。煤
色あると白濁と。塗あると脂と交やうあるあり。臭氣も各異あ
る。唯度數をあり記得く。詮をさことあり。醫師もまこの、

ること織悉問聽ぬる輕脱あり。如茲意を用。着病人の當務を
と。餘事小心の分ぬやう小をべ。病者の旁小あり。倦あり
こく書籍を讀べらば。况突暴をどの類へ嚴禁をべ。就中
父母の病あるとさる。君家の務る是非あり。其他一切家道の事
ありとも。緊要をらむ。其人小委く顧問べらむ。然とも父母
病床小在るをら家道の事を挂念小せば。然べさることらほどよ
くむらひく。其心を安のらむべ。い。小危篤の病ありと
も。父母の心小合ぬ。志を養道小背く不孝也。ま。父母病あり
とも。其病の間あるをりく。親族の中父母の悦ものを撰て己
小代し。寔時ありとも寢息く精神を鎮。事あるとさ小萎頓ぬ

やう小をべし。まゝ奴婢を病者あるとさふら。ことさら小勞
て疲ぬやう小使令べし。小過ありとも必罵詈ことあるを。たゞ
制べきも男女の別あり。姦通より病者の為善のらぬことを牽
連ことあはれ。其法令を慢べのらむ。唯慈愛と金銀を以て服使
べし。且病者の為小の其費用を厭べのらむ。常の貯蓄も如此時
の爲あり。力の及たけを心を盡べきことあり。又病者の寢室
近く。高聲せしむべのらむ。安小笑語をべのらむ。他人の病苦死葬
のこと。無聊ある談を爲べのらむ。まゝ無用の人と。病者の意小
合ぬ人も。近しむべのらむ。若危篤小く醫士も閣手。吾人も治ま
べのらむ。病と知べ。毎事病者の意小委。服小くを薬と強用

べのらむ。患人の覺悟小從く。絶て薬を止るも可然を毀譽を
懼無益の醫を招。病者の診察を厭をも顧さるも何ごこと。も
病者覺悟あしく。死ぬるまゝを醫も迎へ。薬も用べし。又覺
悟よろし。のらぬ人も。家人の離別を傷。本心を失もの多。のら
人と見べ。必死ぬべきことあるを告るあり。ことさら尤用意あるべ
きことあり。其死期近小ありとみ。幼兒孫及病者の心小か、
る血親も。あるべきたけ會しめさるるよ。苦痛の間も。愛着の
情發べ。死期の妨とあるべあり。臥室をいり。小も潔淨小して寂
寞あると良と。近隣小琴三絃笛鼓をその音せ。親を人し
其家小告。且過んことを乞べし。のらる音聲の耳へ入べ。死ぬべ

る時の大なる妨害とあることあるか故あり。今や瞑目あると
あることも。戚屬圍繞哭泣と可らぬことあり。命絶く後小哭
べし。忍ぶたくく聲を發ものあらば。疾小別室へ遣べし。死期小
親戚の啼哭を聞しむるもの、大なる不孝をせむ。此
車々豫より用意をせむ。めめく忌失べらば。必死ぬべし。病者と
一切心の繋引ぬやう小むること。看護人の最切緊に記得べ
し。然るときは臨死の苦痛も自微病者小於大なる益あること
あり。又至誠の心一からむ。病者のため小。道釋巫祝の徒小
委く祈禱をせむること。更無益のことあり。この道釋巫祝を輕
薄の者多。唯貪利の爲の祈念神符小何の驗の有べきこと小

天命盡る者を何の汰ありける能死を反べき。孔子の丘が禱
こと久と言ありしこととよく思へ。假令天數盡むとも。祈
とも驗をきこを驗をせむ。いのる心小信をけし。バの旨を味は。却
く神佛の呵護あるまじく。病者の爲不利こと小ありぬべし。中
夏コシの古昔。周の武王の病ありし時小。其弟の周公旦吾身を以て
代んと祈誓ありし。バ。忽感應あり。さし大漸し。武王の病
の不日小愈たまひし。周公の弟たる道を盡し。且深天下の亂を
憂たまふ。其至誠より出たることあり。まゝ元の太宗皇帝の病
を將小死んとする時。其宰相耶律楚材といひし人皇后と相議
て。俄小大赦の令を發さし。め。俘囚及官吏の有罪を悉赦免あり

一。小。其。夕。太。宗。の。絶。た。る。脉。復。生。く。甦。た。り。と。ぞ。此。帝。ハ。初。政。を。楚。材。小。與。と。い。へ。ご。も。其。性。酒。を。嗜。晩。年。小。至。く。尤。甚。く。遂。小。楚。材。の。諫。を。容。こ。と。能。む。細。人。小。委。任。賣。官。鬻。獄。辜。を。さ。も。の。を。囚。繫。た。る。も。ま。と。多。楚。材。天。譴。の。由。く。来。こ。こ。ろ。を。明。小。知。り。故。小。大。赦。を。行。し。め。た。り。一。其。仁。愛。の。天。地。を。感。動。せ。し。め。く。死。小。垂。と。し。た。る。太。宗。の。再。蘇。生。あ。ら。と。し。ち。ま。と。宜。あ。る。こ。と。小。あ。ら。む。や。今。の。世。諸。侯。あ。ど。其。病。を。巫。祝。僧。侶。小。委。く。祈。ん。ふ。り。も。寧。奢。を。節。殺。を。禁。圖。の。刑。を。輕。し。民。の。征。賦。を。減。あ。と。さ。る。こ。と。洪。大。の。仁。惠。こ。と。あ。る。べ。け。と。然。ご。も。是。郡。國。を。主。宰。さ。る。人。の。上。の。事。小。く。士。庶。も。も。と。よ。至。企。及。べ。き。こ。と。小。あ。ら。れ。ど。愍。く。進。德。修。業。を。皆。己。が。心。小。

由。く。起。も。の。也。故。小。常。小。此。心。を。存。を。ま。さ。其。成。功。量。べ。の。ら。む。必。り。も。多。生。を。放。貨。を。施。小。非。を。驗。あ。し。と。い。ふ。べ。の。ら。む。さ。と。ご。も。其。分。小。應。と。く。財。あり。勢。あ。る。も。の。と。と。ま。と。易。こ。と。あ。ま。さ。バ。い。の。小。も。吾。力。の。及。た。け。る。人。の。厄。を。救。貧。を。惠。殺。を。戒。生。を。放。の。耶。律。楚。材。の。ご。こ。く。天。地。生。成。の。心。を。心。と。せ。バ。必。定。あ。る。天。命。を。も。革。て。禍。を。轉。し。福。を。迎。其。驗。あ。ら。ん。こ。と。ま。と。必。然。あ。り。も。一。緡。の。錢。一。溢。の。米。老。親。を。養。妻。帑。小。給。小。足。む。貧。歎。い。の。小。と。も。為。べ。の。ら。ざ。る。も。の。も。父。兄。の。病。小。代。ん。小。身。を。以。く。さ。る。か。ど。の。至。誠。心。周。公。の。如。あ。ら。む。神。佛。の。感。應。い。の。ぐ。の。あ。ら。ざ。る。べ。き。然。ご。も。こ。の。こ。と。ハ。人。の。尤。難。と。さ。る。こ。こ。ろ。あ。り。而。を。能。為。得。小。

放オイくハ。是コレ彼カノ有カ力チ者ノの財キゼンと捨ステく惠ホトコシを行オモテふりも。其シ驗ケンを得ウルこと大
 小コ優ユぬべし。惣スベて善ゼンを積ツミ徳トクと植ウエるも。いいのの小コも真マコト實ツツ小コして虚ウソ假ナリ
 小コを貴タカシとともともともと。一ツ途ツ小コ孝カウ悌タイ忠チウ信シンの道ミチを以モて。赤アカ心ココロ小コ所イんンこ
 そ。天地カミホト鬼神カミホトの本コノ意イ小コも合カフべし。

病家須知卷之一終

病家須知
 病家須知



痲家須知

